

令和6年度 香川県立丸亀高等学校学校評価書

1 本校の教育方針

国家及び社会の有為な形成者として、知・徳・体の調和のとれた、心身共に健全な人間の育成を期する。

特に、文武両道の高校生活を通じて、生徒の創造的な知性を育て、豊かな情操を養い、身体を鍛えるとともに、自主的・自律的な態度や公共の精神を培う教育を推進する。

2 本校の教育目標

- (1) 自ら学び、考え、実践する態度や能力を育成するとともに、個々の生徒に応じた指導により、学力の一層の向上を図る。
- (2) 人格のより良い発達をめざし、自主的・自律的な生活態度や好ましい人間関係を育て、社会の形成に参画し貢献する態度の育成を図る。
- (3) 自己の能力や適性について自覚を促し、進路情報の提供や進路相談等により、生徒一人ひとりの主体的な進路選択の実現を図る。
- (4) 特別活動等における集団生活を経験させることにより、協調の精神や豊かな実践力を養い、個性や体力の伸長を図る。

3 本年度の成果、課題

学 年 団	1 年 団	p. 1, 2
	2 年 団	p. 3, 4
	3 年 団	p. 5, 6

教 科	国 語 科	p. 7, 8
	地 歴 公 民 科	p. 9, 10
	数 学 科	p. 11, 12
	理 科 科	p. 13, 14
	保 健 体 育 科	p. 15, 16
	芸 術 科	p. 17, 18
	英 語 科	p. 19, 20
	家 庭 科	p. 21, 22
	情 報 科	p. 23, 24
	総合的学習の時間(TP)	p. 25, 26

校務分掌	総 務 部	p. 27, 28
	教 務 部	p. 29, 30
	進 路 指 導 部	p. 31, 32
	生 徒 指 導 部	p. 33, 34
	教 育 相 談 部	p. 35, 36
	特 別 活 動 部	p. 37, 38
	人権・同和教育部	p. 39, 40
	保 健 部	p. 41, 42
	教 育 研 究 部	p. 43, 44

定 時 制	p. 45, 46
通 信 制	p. 47, 48

4 学校評価アンケート

教員, 3年生, 保護者のアンケート結果の比較(3年間)	p. 49~56
令和6年度の集計(記述回答あり)	p. 57~62

5 学校関係者評価書

p. 63~65

1 年 団

学年主任：佐野 英二

(1) 今年度の目標

- ① 高校生としての自覚と責任を持ち、基本的生活習慣を確立すること。
 - ・自律的な生活を心掛け、社会のマナーを身につけた良識のある高校生であることを目指す。
 - ・登下校の交通マナーの遵守、携帯電話の使用のマナーなど、社会規範について、周囲の状況に気を遣い適当な行動ができる高校生になることを目指す。
- ② 授業を中心に据えた自主的学習習慣を確立すること。
 - ・家庭学習時間を確保し、自身の進路を見据えた計画性のある学習ができるようにする。
- ③ 目標、志を高く持ち、充実感と達成感を得られる高校生活にすること。
 - ・学級活動、部活動、生徒会活動、学校行事や校外でのボランティア活動などに積極的に参加し、協調性、社会性や品格を養う。

(2) 主な取り組みの計画

- ① 学校生活を基本にした生活習慣、学習習慣を確立させる。
 - ・日常生活のリズムが学習の土台でもあることを意識させるため、欠席、遅刻、早退、服装指導等、保護者と連絡をとりながら丁寧に指導していく。
 - ・面接指導で、生活時間調査等で自分の生活を振り返らせ、目標を高く持ち、時間を有効に使わせる工夫、意識を持たせる。
 - ・校内の各分掌と生徒の情報の共有を図り、指導に役立てる。必要に応じて、外部の専門機関とも連携をする。
- ② 自ら進路目標を設定し、目標の実現に向けて学習する。
 - ・適切な時期に適切な情報を与え、進路に関する選択と目標設定を支援する。
 - ・自主的に学習に取り組む態度を育て、予習、復習（自宅学習）の習慣を確立させる。
 - ・講演会、オープンキャンパス等を通して、進路実現に向けて意識を高める。
 - ・タブレット端末を有効活用させる。
- ③ 積極的に学校行事や部活動、ボランティア活動に参加させる。
 - ・部活動に積極的に参加させ、心身を鍛えるとともに仲間との連帯意識を育てる。
 - ・運動会や津島杯、斯文祭などの学校行事を通して、クラスの一体感を盛り上げさせる。

(3) 成果

- ① 高校生としての自覚と責任を持ち、基本的生活習慣を確立すること。
 - ・オリエンテーションでは、予習、授業、復習のサイクルが大切になること、毎日の家庭学習の重要性を指導した。特に英語・数学・国語の3教科を中心に取り組むように指導した。
 - ・生活時間調査を年間4回実施し、それを元に担任は面接を実施した。学習習慣の確立にいい影響を与えたのではないかと。
- ② 授業を中心に据えた自主的学習習慣を確立すること。
 - ・文理選択の決定や、模試の成績を返却するときに、面接を中心に担任と生徒が十分な意思疎通を図りながら行うことができた。高い志望校の設定と、それに見合う努力が必要であることを生徒は理解した。各教科とも、課題等に工夫をして自分に合った学習に取り組めるようにした。
- ③ 目標、志を高く持ち、充実感と達成感を得られる高校生活にすること。
 - ・多くの生徒が部活動や生徒会活動に参加し、積極的に活動している。勉強との両立が難しく悩んでいる生徒もいるが、このような活動から得られるものも多いので、積極的に取り組むよう勧めた。また、校内にとらわれず、校外でのボランティア活動等も勧めた。
 - ・運動会・津島杯・斯文祭等の行事では生徒同士が協力して活動することができ、クラスの親睦も深まった。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ・一部の生徒であるが家庭学習が不十分であったり、与えられた課題をこなすことしかできていない生徒の集団がいる。また、課題を提出することが目的になって、積極的に、自主的に目的を持って学習に取り組めていない生徒も多い。しかし、しっかりと目標を高く持ち、自ら課題を見付けて学習に取り組むことができる積極的な生徒もいる。多様な生徒が混在する中で、担任を中心に引き続き面談等を活用して、生徒自身が目標を立て、モチベーションを維持しながら地道に学習していくよう働きかける。
- ・東大、京大のキャンパスツアーは生徒にとって進路を考える上で効果が高いので、ぜひ継続していく必要がある。より効果を上げるために、事前の指導も充実させる必要があると思われる。生徒個々が自身の進路希望に応じてオープンキャンパスに参加するよう促していきたい。
- ・毎年、教育相談上、配慮の必要な生徒が増えてきている。入学後の環境の変化の変化をきっかけに、想像していた高校生活と現実とのギャップに悩むケースが多い。また、周囲との人間関係の構築に苦労する生徒も増えている。学級担任を中心に、保護者や出身中学校・医療機関等とも連携して、教育相談部をはじめ、学校全体として情報を共有しながら、適切な指導や支援に努める。

2 年 団

学年主任：白川 一樹

(1) 今年度の目標

- ① 2年生としての自覚を持ち、規律ある高校生活を送る。
 - ・改めて、基本的生活習慣の確立。休まず遅れず毎日登校すること。
- ② 進路の具体的な目標を持ち、主体的に学習をする。
 - ・家庭学習の時間を確保し、目標実現に向けて効果的な学習をする。
- ③ 部活動や特別活動に意欲的に取り組み、充実感と達成感を得る。
 - ・部活動や修学旅行、斯文祭などの学校行事に積極的に参加して、未知なる自己実現を図る。

(2) 主な取り組みの計画

- ① 授業態度、服装、言動など基本的生活習慣の確立について学年(学校)全体で取り組む。
 - ・基本的生活習慣の確立が最重要であること自覚させる。
 - ・学習計画表や生活時間調査、夏休みの生活時間調査等を有効に活用させ、PDCAを実践させる。
 - ・面接指導を効果的に実施する。つまずきの発見や悩み等を早期に発見する。聞き取りを通じて生徒の内面に寄り添う指導を行い、人間的成長を促す。
- ② 学力に関して面接等を重視し、個に応じた指導をする。
 - ・授業を大切にすること、そのための家庭学習時間が取れるように計画を立て実践させる。
 - ・受験情報を提供紹介するだけでなく、自分で必要な情報を探す力をつけさせる。
進路ホームルームなどを利用し、『進路の手引き』、タブレットをこれまで以上に活用させる。
 - ・定期試験、学力テスト、校外模試での振り返りを重視させる。
 - ・オープンキャンパスや難関大セミナーへの積極的な参加を促し、進路意識を高めさせる。
 - ・「進路だより」を効果的に活用して、どの時期に何をすべきかのアドバイスを与える工夫をする。
 - ・3学期を「3年0学期」と位置付け、受験生としての自覚を持って学習に取り組ませる。
- ③ 学年団、クラスの和を大切にし、学校行事に積極的に参加させることによる人間的な成長を促す。
 - ・部活動でリーダーシップを発揮する。(部内での健全な人間関係の構築)
 - ・学校行事(運動会、斯文祭、津島杯、修学旅行など)に積極的に参加させる。
 - ・その他の企画(高大連携事業や講演会など)に積極的に参加させる。

(3) 成果

- ① 2年生としての自覚を持ち、規律ある高校生活を送る。
 - ・日々の生活指導や面接指導等を通じて、2年生としての自覚を持つように促すことができた。また、つまずきや悩みなどを早期に把握することもでき、その後の指導に生かせることができた。
 - ・毎日登校することが困難な生徒については保護者との連絡を密にし、教育相談部、養護教諭、SCとの情報交換を行い指導に生かすことができた。各部との連携による生徒の情報共有で、その後の対応がスムーズにできた。
- ② 進路の具体的な目標を持ち、主体的に学習をする。
 - ・担任による面談指導、進路HRを通して、大学進学に向けたより具体的な進路指導ができた。また各自が志望校、学部学科について考えることができた。
 - ・長時間学習ができる生徒がいる一方で、日々の課題の提出に苦労したり、定期考査の成績が振るわない生徒もいる。
 - ・授業におけるタブレット端末の活用は、定着しているように感じる。課題の提出や添削、アンケート調査など目的に応じた活用ができています。
 - ・TPではタブレット端末を活用してプレゼンテーションを行い、その成果を発表することができた。JRとタイアップをしたグループでは、地元丸亀の「食」と「歴史」をテーマにしたツアーを企画し、好評であった。
修学旅行のコース説明でも同様にプレゼンテーションを行い、興味が持てるように詳しく説明することができた。
- ③ 部活動や特別活動に意欲的に取り組み、充実感と達成感を得る。
 - ・すべての学校行事が実施できた。斯文祭など2年生が企画、運営の中心となり実施することができた。
 - ・修学旅行は5年ぶりに北海道に行くことができた。地元香川では体験することができない雄大な自然に触れることができ、また自主研修では自分たちで企画したコースを散策して、雄大な北海道の文化を学ぶことが出来た。生徒からは好評であった。
 - ・学業との両立に悩んだ結果、運動部を退部する生徒が増えた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ・2年生になり運動部を退部する生徒が増えた。大学受験に向けて、心にエネルギーがあるか懸念するところである。部活動からリタイアして切り替えるきっかけがないので、直ちに大学受験に向けて取り組めるように面談等を利用して仕掛ける。
- ・大学受験が現実となり、精神的ストレスを抱え込み心身に不調をきたす生徒が増えることが予想される。保護者との連絡を密にして、生徒の情報共有を図りたい。校内の分掌や医療機関とも連携して、学校全体で生徒を支援していく。
- ・個々の生徒の進路実現が目標になるが、受験の為だけの勉強にならないように日々の学校生活の指導で人間的成長も促していきたい。

3 年 団

学年主任：村上 幹子

(1) 今年度の目標

- ① 3年生としての自覚を持ち、心身の健康に留意して、規律ある高校生活を送る。
 - ・自主、自律的で健康な生活を実践し、協調的態度を育成する。
- ② 進路目標を高く掲げ、実現する。
 - ・進路を明確にし、目標実現に向けて効果的な学習をする。
- ③ 豊かな人間性を養う。
 - ・社会生活における役割や責任を自覚し、他者への理解や思いやりの心を育成する。

(2) 主な取り組みの計画

- ① 3年生であることを自覚し、自律的で健康な生活が送れるよう支援する。
 - ・言葉遣いや服装・態度、時間や約束の厳守などの基本的な生活態度が適切であるか、機会あるごとに指導する。
 - ・人間関係や進路など生徒の悩みや不安を注意深く察知し、心身ともに健康な学校生活を送ることができるよう、生徒との面談や保護者との連携、および校内連携により支援する。
- ② 主体的に進路目標が実現できるように支援する。
 - ・面接や三者面談などを通して、進路を明確にさせる。
 - ・適切な時期に進路説明会や懇談会を実施することにより、生徒と保護者が共通理解の下で進路を決定できるようにする。
 - ・進路ホームルームや総合的な探究活動などを通して、納得のいく進路選択をし、計画的に学習を進めていけるよう支援する。
- ③ 好ましい人間関係を築かせて、社会生活を営む力の向上を支援する。
 - ・学ぶことの楽しさを追究するとともに、社会の動きに関心を持ち、周囲の人々の気持ちに配慮できるような広い視野を持たせる。
 - ・運動会、津島杯（クラスマッチ）、遠足などの学校行事に積極的に参加させることによって、好ましい人間関係を築かせ、協力・協調の精神を養う。

(3) 成果

- ① 3年生としての自覚を持ち、心身の健康に留意して、規律ある高校生活を送る。
 - ・時間を守り、節度ある行動をとること、服装や言葉遣いは人を表すということを日々の生活指導や集会などを通して指導した。
 - ・日頃の観察や声掛けに加え、欠席をした場合や気になる様子が見られた場合などには、保護者への連絡を密にとり、必要に応じてスクールカウンセラーも含めた校内連携を図ることで、生徒が心身ともに健康な学校生活を送れるように支援することができた。
- ② 進路目標を高く掲げ、実現する。
 - ・新課程最初の学年ということもあり過年度との単純な比較がしづらい部分もあったが、進路HRや進路説明会を通して、大学受験の最新情報を提供することができた。進路説明会では86パーセントの保護者に参加していただけた。
 - ・1年次より、志望を高く持ち、易きに流れないこと、最後まであきらめないことをさまざまな方面からメッセージとして伝え続けてきた。進路HRや、正・副担任、教科担当による面談指導、三者懇談を通して、志望を貫くことの大切さを説くとともに、不安を抱える生徒には時間をかけて悩みを聞いたり励ましたりして、進路実現のために最後まで走り切れるよう支援した。
 - ・タブレット端末については、授業時の課題提出やプレゼンテーション、アンケート集計など、大半の生徒がスムーズに活用できていた。総合的な探究の時間においても、タブレット端末を利用したプログラム学習により、進路目標を明確にし、夏休み以降の具体的な学習計画を立てることができた。
 - ・1学期末、2学期末の保護者懇談に加え、共通テスト後の懇談会を実施し、国公立大学出願校の最終決定や私立大学出願の最終確認などについて、担任、生徒、保護者が十分に話し合うことができた。
 - ・2月からの家庭学習期間中も自習できるように教室を開放し、放課後も残って勉強できる環境を整えた。また、各教科の添削指導を受ける教室も設定して、多くの生徒が個別試験の勉強に利用した。
- ③ 豊かな人間性を養う。
 - ・運動会、津島杯では、クラスTシャツで応援をしたり、入場パフォーマンスで息の合ったところを見せたりするなど、学校行事を積極的に楽しむ姿が見られた。また、遠足でも楽しい時間を共有することで、友好的な人間関係を築くことができた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ・推薦入試を利用する生徒が増えているが、読書量やより深い探究心、学校以外の社会との関わりが圧倒的に足りていないと感じる。世の中の動きに関心を持ち、自主的に考え行動する力を身につけられるよう、授業や学校生活のさまざまな場面において、生徒が動き出すきっかけや仕掛けを作る必要がある。
- ・入学当初より、学習や対人関係への不安などから心身に不調をきたし、欠席する生徒がいた。学校と保護者、場合によっては医療機関との連携を図りつつ何とか3年間学校生活を継続してきた生徒も複数名おり、今後もその数が減少することは考えにくい。引き続き、学校全体で生徒の支援をする。

国 語 科

主任：小山 初美

(1) 今年度の目標

- ① 論理的な読解力の向上
- ② 古典読解力の向上
- ③ 読書指導の強化

(2) 主な取り組みの計画

- ① 論理的な読解力を向上させるための指導を工夫する。
 - ア 授業で論理的な文章を教材として積極的に使用する。
 - イ 評論文を要約させることを繰り返すことにより、論理的な思考を養成する。
- ② 古典読解力を向上させる。
 - ア 基礎力テストを利用し、動詞→形容詞・形容動詞→助動詞→助詞→敬語という段階を踏んで学習させ、読解の助けとさせる。
 - イ 日本語における文末表現(助詞・助動詞・補助動詞等)の微妙な差異に気づかせ、現代語訳を注意深く行うことの重要性に気づかせる。
 - ウ 学力テストや、本校教員の作成した独自教材を用いて、より多くの古典に触れさせる。
 - エ 生徒に予習をして授業に臨み、授業後は復習するようにうながす。
 - オ 効果が期待できる場面では、適宜ＩＣＴ機器を利用して、指導の助けとする。
- ③ 生徒が図書に触れる機会を増やす。
 - ア 図書室の利用を促す。
 - イ 読書の記録や読書感想文を利用し、長期休業中にも図書に触れる機会を増やす。

(3) 成果

- ①ア 教科書教材において、現代文では評論文に重点を置いた。
 - イ 評論文の問題演習、百字要約等に定期的に取り組み、各自で添削や採点を行わせた。
- ②ア 1年生では動詞・形容詞・形容動詞・助動詞及び基礎的な漢文句法、2年生では助詞・敬語及び漢文句法の基礎力テストを、計画的に実施した。
 - イ 助詞・助動詞といった付属語の読解における重要性を理解させるため、古文の予習では自分で付属語を指摘した上で口語訳をするように、特に指導した。
 - ウ 1年生については、新教育課程になって古典分野を扱う授業時間が減少した。少しでも多くの作品に触れさせるため、長期休業中に、説話や随筆を出典とした問題演習に取り組み、古典に親しむ機会を設けた。2年生では、古典常識をテーマにした本校独自に作成した教材に取り組みさせた。継続的に自分の力で読む経験を積むことで、古典への興味を喚起するのにも役立った。古典常識教材は3年生でも継続指導した。
 - エ 「予習・復習」については、古典分野で特に向上が見られた。「行っていない・あまり行っていない」層が、1年言語文化で7月には15.3%だったが、12月に11.4%と減少、3年古典探究でも7月9.3%から12月5.7%と、意欲的に予習・復習に取り組むようになってきた様子が、数字の上でも確認できた。新しい教材に入る前に意味調べやワークシート等に取り組み、授業後は要約をさせるなどして、授業の定着を図る取り組みを行った。
 - オ 本文や資料をホワイトボードに投影して理解の助けにしたり、ロイロノートを活用して記述問題の答を提出箱に出させ、生徒同士で意見を共有したりした。
- ③ア 1年生初めにクラス単位で図書室ガイダンスを行った。さらに授業で扱った教材に関連した図書室の書籍を紹介したり、教科書で学習した作品に関連した書籍を、図書室で購入していただいたりなど、図書室とも連携して読書指導を行った。
 - イ 読書指導に関しては、今年度も夏休みに「読書感想文」を、また、春・夏・冬の長期休業中には「読書の記録」を課題に設定することで、生徒に読書を促すことができた。「読書の記録」の中の推薦図書リストには、本校生徒の貸出回数の多い本も併せて紹介し、最新の情報に更新できている。「読書感想文コンクール」においては、今年度も本校生徒の作品が県審査で高い評価を得た。

(4) 課題と次年度以降の改善策

大学入学共通テストでは、本校平均点は、中間発表平均点に対し27点以上の得点差をつけ、今年も健闘したといえる。

学力テストは、1・2年生とも特定の範囲を設定しない出題であり、日頃の学習の成果がダイレクトに成績に出るため、生徒も授業や家庭学習の重要性を感じるようになってきたと感じる。校外模試は、3年生11月の成績は10月平均点偏差値56.2から11月57.4と伸び、過去5年間で2番目によい成績である。難関大を目指せる上位層も昨年度より多い。1年生では、7月に55.1と例年と比較して成績が振るわず憂慮していたが、11月で57.3へ上昇しており、同時に下位層も減少している。今後は、教科からも難関大セミナー参加を促す声かけをしたり、学習方法の相談に個別に応じたりするなどして、さらに難関大学を目指せる層が増えることを期待したい。一方で、古典基礎力テストの成績不振者が固定傾向にあるため、生徒に文法・句法の基礎を身につけることの大切さを根気強く説き、下位層の学力の底上げもさらに図りたい。

地 歴・公 民 科

主任：原 利津子

(1) 今年度の目標

- ① 社会事象に関心を持ち、自ら学び考え、自分の身の回りを含む社会をよりよくしていこうとする態度を養う。
- ② 現代社会における諸問題の社会的背景や要因について、自ら探究し、表現する力を養う。
- ③ 地理・歴史・公民分野について幅広く関心を持ち、それぞれの科目で基本的な知識を定着させるとともに、身につけた知識を総合的に活用できる力を養う。

(2) 主な取り組みの計画

- ① ア 授業で、時事問題を取り上げる時間を適宜設け、生徒の関心を喚起する。
イ 授業内容と生徒の身の回りで起こっている事象との関連に気づかせ、授業内容を自分の身近なものとして考えさせる。
- ② ア 現代社会における諸問題について考察する際の参考となるように、新聞のコラム欄や図書を紹介したり、タブレットでの情報検索をうながしたりする。
イ 適宜、アクティブラーニングを授業に取り入れ、主体的に学習に取り組めるようにする。その際、タブレットを有効活用する。
- ③ ア 教員間で連携を図り、各科目の学習内容について確認できるようにする。
イ 授業の学習内容と、他の科目の既習事項とのつながりに気づかせ、知識を関連づけて複合的に思考する力を身に付けさせるようにする。

(3) 成果

- ①ア 各科目において授業の導入として取り入れたり、学習課題を考える上での例として示したりするなど、現在、世界で起こっているニュースや生徒の身の周りで起こっているできごとについて触れる機会を適宜設け、さまざまな社会事象への関心を喚起できた。
- イ 授業内容と現代社会のできごとを関連させて考えさせることにより、つながりを実感できる生徒が増えてきた。授業評価アンケートの自由記述欄には「外国のニュースに関心を持てるようになった」などの記述も見られた。
- ②ア タブレット等を使って身近な情報を活用することで、授業内容や社会的事象に対する興味関心の向上が見られた。歴史では、芸術作品や、授業内容から現代につながるできごとについて検索した。地理では、地図やデータ、Google Earth等のアプリを多用し、地理的事象について視覚的に理解できるようにした。また、政治・経済では、各国の社会保障制度を検索・比較し、日本の社会保障制度の特色や課題をまとめた。授業アンケートでは、「プリント、補助資料、ICT機器の利用など、授業内容を理解しやすいように工夫している」を「あてはまる」と回答した生徒が、第1回では89.8%で昨年度より高かったが、第2回では93.7%とさらに増加しており、授業内容への興味・関心を高めたり、理解を深めたりするための工夫に成果を見ることができた。
- イ 主要な歴史的事象および地理的事象について発問したり、さまざまな資料を提示したり、タブレットでの検索を促して考察、発表を行うなど、主体的に活動し、思考力、判断力、表現力を養うことを意識して授業を行った。地理総合では、各国の子ども手当を調べ、自分が住みたい国を発表し合ったりした。政治・経済では、さまざまな金融商品の種類やしくみ、リスクとリターンの関係についてタブレットを利用して学び、人生設計と資金計画の必要性について理解を深めることができた。限られた授業時数の中で討議を行うまでの時間の確保は難しい科目もあり、各自が思考した結果をノートにまとめ、教員が全体に紹介することで共有する方法をとった場合もある。
- ③ア 日頃から各科目の授業内容について担当者間で確認する機会を設け、科目間で知識を補い合い、授業内容の精選につながるようにした。
- イ 日本史と世界史、世界史の現代分野と政治・経済など、科目間で学習内容の関連が深い単元では、進度を確認し、後で学習する科目の授業で発問をしたり、確認をさせたりすることで、限られた授業時数の中で知識を深められた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ・ 引き続き科目間の連携を図り、生徒の理解を深め、授業内容の精選につながるようにしたい。また、タブレットの活用方法について研究し、生徒の思考力・表現力の向上につながるようにしたい。
- ・ 大学入学共通テストにおいて、どの科目でも多くの資料を用いた問題がさらに増える傾向にあるので、授業の中で資料にふれる機会を設けたり、学力テストや校内模試において出題、解説を行ったりして、対応力を身につけさせたい。

数 学 科

主任：岡田 道有

(1) 今年度の目標

- ① 自主的学習習慣を確立させる
- ② 基礎学力を充実させる
- ③ 個に応じた指導で、学力上位層を伸長、下位層を底上げする
- ④ 新時代に対応し、数学的な見方や考え方を活用できるようにする

(2) 主な取り組みの計画

- ① ア 入学当初のオリエンテーションで、予習復習の方法を具体的に示すことにより、家庭学習習慣を身につけさせる。答えを出すことより、その過程を大切にすることの定着を図る。
イ 1・2年生に対しては確認課題を実施することにより、生徒の学習習慣を確立させる。基礎学力の定着および授業の理解度の向上を図るとともに、発展的な学習を促す。また、期日を守り提出することの定着を図る。
ウ 学力テストでの幅広い難易度や思考力を問う問題の出題により、基礎的内容を確認させるとともに、発展的な学習に計画的に取り組む姿勢を持たせる。
- ② 定期試験、学力テスト後に訂正ノートの作成を課し、出題の意図の確認や学習内容の理解と定着を促すため、細かな点検をする。
※
- ③ 2年生に対して、少人数習熟度別授業で生徒の習熟度に対応したきめ細やかな指導を行うことにより、個々の生徒の理解度や数学に対する興味関心を高める。
- ④ ア ICTの活用とグループでの課題解決学習を通して、双方向の授業を展開する。主体的で深い学びになるように努力する。
イ 試験問題に共通テストを意識した思考力を培う問題を出題する。

(3) 成果

- ① 授業を中心とした計画的な家庭学習が取り組めるよう、提出課題を單元ごとに与えている。
1年生では、取り組めているという数が、80%から83%に上昇したものの、2年生では87%、3年生では89%が取り組めているものの変化はなかった。復習することが定着につながることを授業を通して伝えたい。
- ② 提出物を出す習慣をつけるため1年生には厳しく指導しているが、7%ぐらいの者が提出できていない。2年生では10%、3年生では13%ぐらいの者が提出できていない状況で、自主性に任せると、このような結果になってしまった。また、提出内容が答えを写しただけのものが増えてきたように思う。
- ③ 訂正ノートをこまめにチェックしている。ただ解き直すだけでなく、どこでミスをしたのか分析させることで、理解を深めさせている。提出課題も、書き方のアドバイスをすることで、個に応じた指導に心がけている。
- ④ タブレットを活用して、グラフを動かしたり、図を描くことで、より理解が進められている。また、グループ活動や、解答の共有により、いろいろな考え方に触れさせている。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ①ア オリエンテーションで、予習復習の仕方を伝えたが、答えを求めればよいということで、途中計算をないがしろにする生徒が増えてきた。ノートの使い方も四月当初に改めて話す必要を感じる。
イ 提出課題については概ね、期日を守って提出する指導ができているが、残り1割の者が指導についてこられていない。引き続き、気を長くして、指導を継続したい。
ウ 学力テストでは、共通テストを見越して、チャートの中から、思考力を問うような問題も精選し取り組ませている。定期テストにおいても、会話文形式の問題を取り入れ、取り組ませたい。
- ② 訂正ノートを細かくチェックする。個々の理解度を把握し、細かいアドバイスをし、最後まであきらめずに取り組ませるよう粘り強い指導をしていくことで、レベルアップを図りたい。
- ③ 習熟度の低い生徒には、4Stepの基礎的な問題を繰り返しやらせることで、レベルアップを図り、習熟度の高い生徒には、チャートの発展問題や、入試問題にも触れ、興味関心を持たせて取り組ませたい。
- ④ 教師間で、タブレットを使った教材や授業展開を共有することで、より興味関心を引くような授業を行なえるよう、連携を図りたい。

理 科

主任：荒井 裕子

(1) 今年度の目標

- ① 自然現象に関する興味関心を育てる。
- ② 思考力や判断力、表現力を向上させ、自ら科学的に探究しようとする態度を養う。
- ③ 基礎的な学力を養う。

(2) 主な取り組みの計画

- ① 自然現象に関する興味関心を育てるために
 - ア 実物にふれる機会や実験などを多く設ける。
 - イ ICT教材を使用して写真や動画などを提示したり、デジタル教授資料を活用して最新の研究や身近な内容にも触れたりして、興味関心を高めさせるとともに、より深い理解を目指す。
 - ウ 校内掲示やパンフレットの配布を通じて、様々な科学賞や大学の高大連携企画等を紹介し、参加を促す。
 - エ 科学の甲子園や科学オリンピック等に興味を持つ生徒を募り、参加を呼びかける。
- ② 思考力や判断力、表現力を向上させ、自ら科学的に探究しようとする態度を養うために
 - ア 講義や実験などで仮説を立てたり、考察したりする機会を多くとる。
 - イ ペアワークなどアクティブラーニングの手法を用いて言語活動を活発に行い、論理的に考え、表現する力を養う。
 - ウ 疑問に対する仮説、立証するための実験などをレポートとして課し、科学的な探究心や学びに向かう力を育成する。
- ③ 基礎的な学力を養うために
 - ア 小テスト（確認テスト）を実施する。
 - イ 定期的に課題を課すことで、授業の進行と合わせた家庭学習による基礎的な学力の定着を促す。
 - ウ 定期試験・校内模試・学力テストなどのテスト直しを各自でまとめさせる。

(3) 成果

- ①ア 化学物質や生物体内にある酵素などに実際に触れる実験の機会を多くとり、その中から最新の技術に繋がることを考察させた。また、糖のモデルを組み立てたり、遺伝子組換えや解剖、モーターの作製、地球の大きさの測定するなど、理科全体として積極的に実験を行った。授業評価アンケートにおいても、実験・実習の理解度や考察に関する生徒の自己評価が高かった。
- イ 教科書のQRコードを利用することで、映像資料などを提示できるため、理解を深めるために取り入れた。また、実験データ処理においては、コンピュータソフトを利用することが効果的であった。
- ウ 高大連携企画等の周知(パンプレットの配布・掲示)を行った。
- エ 「科学の甲子園」に参加した。全国大会出場こそかなわなかったが有意義な活動であった。
- ②ア 授業の中で得られた知識やデータをもとに、いわゆるアクティブラーニングを通して生徒自身による考察を行わせた。大学入学共通テストの問題傾向への対応の一助となっている。
- イ アクティブラーニングの手法を用い、専門用語を使用した言語活動を通じて考察する過程で、理解が深まる学習スタイルが定着している。また、ペアワークを行うことで、自己の理解をよりはっきりとさせることができた。
- ウ 実験プリントの提出に合わせて、自己の疑問点に対して仮説を立て、それを考察させた。この科学的思考の流れの疑似体験が、教科書記載実験の研究者の思考の流れを理解しようとする意欲につながっている。
- ③ア 授業のはじめ、途中、または、重要単元を学習した後に、小テストを実施した。また、再テストも実施し、理解が不十分な生徒への対応も行った。また、発問を工夫して授業中の理解を高めた。
- イ 併用問題集を定期試験ごとの提出物とするとともに、単元ごとに問題集に取り組むタイミングを細かく指示し、授業の流れに沿った家庭学習を促した。また、長期休業中もレベルに応じて問題集を指定し、提出することを課題とした。
- ウ 試験の解説を充実させることで、定期試験、学力テストを繰り返し解く意欲の向上をはかった。これは基礎的な学力の定着につながっている。また、復習のリズムづくりにも効果的であった。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ・大学入学共通テストの傾向では、最新の技術をテーマとした問題や、実験データから考察させる問題が多く出題されている。細かな知識を統合して理解する力を試されているため、授業においても、引き続きその点を重視して展開していきたい。
- ・アクティブラーニングの手法はかなり効果的である。例えば、その日の授業内容に関する教科書の記述を通して一度言語化させると、その日の内容理解が促進されることがよくわかる。どのように活動させるかなど、引き続き研究したい。
- ・教科書のQRコードから解説や実験の動画を活用するためにも基本的な概念の徹底を進めていきたい。

保健体育科

主任：亀野 克城

(1) 今年度の目標

- ① 選択した種目の運動の特性に応じた技能を身に付けさせる。また、社会生活における健康・安全について理解させる。
- ② 運動や健康についての自他や社会の課題を発見させ、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断できるようになる。また、これらを仲間などに伝える力を養わせる。
- ③ 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養わせる。

(2) 主な取り組みの計画

- ① ア 選択した種目で学ぶ技術の名称やその行い方、主体的な学習を行う上での課題解決の方法を理解させる。
イ 個人生活のみならず社会生活との関わりを含めた健康・安全に関する内容を総合的に理解することを通して、生涯を通じて健康や安全の課題に適切に対応できるようにさせる。
ウ 運動の楽しさや喜びを深く味わうための運動の技能を身に付けさせる。
- ② ア 選択した種目の特性を踏まえて、動きや技などの改善についてのポイントや課題を発見させる。また、健康にかかわる事象や健康情報などから自他の課題を発見させる。
イ 選択した種目に関わる一般原則や運動に伴う事故の防止等の科学的な知識や技能を、自己や仲間の課題に応じて学習場面に適用、応用させることや、課題解決の過程などを活用して新たな課題発見・解決につなげさせる。また、自他のみならず社会を含めた健康に関する課題について、習得した知識及び技能を活用し、解決方法を考えるとともに、様々な解決方法の中から適切な方法を選択するなど、よりよい解決に向けて判断させる。
ウ 自己や仲間の課題について、思考し判断したことを、言葉や文章及び動作などで表したり、仲間などに理由を添えて伝えたりさせる。
- ③ ア 選択した種目の特性や魅力に応じて、その楽しさや喜びを深く味わおうとする主体的な態度、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にすることなどの意欲や健康・安全への態度を系統的に育むことにより、運動との多様な関わり方を状況に応じて選択し、継続して実践できるようにさせる。
イ 自他の健康やそれを支える環境づくりの大切さを認識し、健康の保持増進や回復等に主体的・協働的に取り組み、健康で豊かな生活を営む態度を育成させる。
ウ 選択した種目を適切に行うことによって、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、心身の調和的発達を図らせる。
エ 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力、健康の保持増進の実践力及び健やかな心身を育てさせる。

(3) 成果

①に関連したアンケート結果でみると「ルールやマナーを大切にし、公正に取り込むことができた」90.9%↑、「運動の楽しさや喜びを感じることができた」85.1%↑、「運動を見ることがや知ることを楽しむことができた」82.5%↑、「体調に応じて運動量を調整したり、用具の状態やその場の状況が安全かを確認したりすることができた」79.3%↑、「個人及び社会生活における健康・安全について理解することができた」83.2%↑という結果であった。

②に関連したアンケート結果でみると「課題を発見し、改善のための練習や作戦の考え、実践し、評価することができた」79.5%↑、「自己や仲間の課題について考えたことを言葉や文章にしたり、他者に伝えたりすることができた」72.4%↑、「自らの意志を伝えたり、仲間の意見を聞き入れたりすることができた」80.2%↑、「健康についての自己の課題や社会の課題を発見し、解決に向けて考えることができた」78.7%↑という結果であった。

③に関連したアンケート結果でみると「運動の技術や体力の高め方について理解し、実践することができた」81.9%↑、「授業中や生活の中で、自己の体力に応じた運動の計画を立て、取り組むことができた」70.9%↑、「技能や体力の違いに配慮し、助け合ったり、教えあったりすることができた」81.0%↑、「役割を積極的に引き受け、責任を持って取り組むことができた」75.9%↑という結果であった。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ① アンケート結果では、ほとんどの生徒が目標を達成し、全ての項目で上昇した。しかし「体調による運動量の調整」については今年度も80%を下回っており、授業中は特に生徒の体調を把握し、次年度はもう少し向上できるように実践していきたい。
- ② アンケート結果では、全ての項目で上昇し、全体で昨年度より平均して12%以上も上昇した。特に「自己や仲間の課題について考えたことを言葉や文章にしたり、他者に伝えたりすること」は昨年より17%も上昇したが、全体的に本年度も80%を下回った。次年度も生徒間のミーティング時間を増やし、教員もアドバイスができる環境をつくれるように実践していきたい。
- ③ アンケート結果では、全ての項目で上昇し、全体で昨年度より平均して12%以上も上昇した。特に「授業中や生活の中で、自己の体力に応じた運動の計画を立て、取り組むこと」は昨年より16%も上昇したが、まだまだ70%前半だった。次年度も体育、保健の授業の両面から自分の体力を把握させ、自分の体力にあった計画が立てられるように実践していきたい。

芸 術 科

主任：藤田 貴子

(1) 今年度の目標

- ① 音楽・美術・書道それぞれの特質について理解し、意図に基づいて表現するための基本的な理論や基礎的な技能を身に付けさせる。
- ② 年度末の「学習成果発表会」に向けての活動の中で、創る喜びと発表する達成感を味わわせ、生涯にわたって芸術を愛好する心情を育むとともに、生活の中で芸術を楽しませるようにする。
- ③ 学習効果を高めるために、引き続き I C T の効率的な活用について研究する。

(2) 主な取り組みの計画

<音楽>

- ① 演奏技術、歌唱技術の向上を目指し、論理的な考え方に基づいた実践練習を行えるよう指導する。
- ② 舞台上で演奏することを想定して短期的、中期的な目標を設定し、達成度合いを生徒同士、または教員が確認しながらお互いに磨き合える雰囲気をつくる。
- ③ 音楽アプリケーションの利用により理解を深めたり、録画機能を用いて課題の提出を行うことで、自身の演奏を客観的に振り返る機会を設け、学習効果を高める。

<美術>

- ① 美術の基本的な内容を復習しながら、より発展的な学習指導をする。
- ② 美術史の中で多種多様な作品に触れ、自分の表現に合う表現材料、表現方法を模索し、計画性をもって作品制作に取り組ませる。
- ③ 教授資料の提示、活動の記録などでタブレットを活用し、資料の細部を確認させたり、活動の振り返りをさせたりすることで学習の定着と自ら課題発見をさせる。

<書道>

- ① 1年生の導入部分で書写から書道への移行がスムーズにできるよう、個別指導やグループワークを適宜取り入れて、主体的に活動できるよう雰囲気づくりを心掛ける。
- ② 作品を創作するにあたって、意図をもって制作することの喜びや達成感を味わわせるとともに、身近にある様々な芸術作品にも目を向けさせるようにする。
- ③ タブレットを有効に活用し、作品の制作過程や作品鑑賞に効果的に生かせるようにする。

(3) 成果

<音楽>

- ① 自分たちの取り組んでいる曲の内容理解を深めるようなレポートを課し、楽曲を分析することができ、表現につなげることができた。
- ② 過去の音楽成果発表会の様子を鑑賞させたり、折に触れてホールでしっかり響く演奏を心がけるよう促すことで演奏の幅が広がった。
- ③ タブレットの利用により、繰り返し参考音源を聴くことができたり、生徒同士で演奏を録画し、課題として提出するとともに自身の演奏を客観的に振り返ることができた。

<美術>

- ① 表現材料について学習し、理解した上でテーマやコンセプトに沿って造形できた。
- ② 自分らしさを表現する上で適した表現材料や表現方法を選択し、制作に取り組めた。
- ③ 活動の記録を残し、自ら課題を発見し修正することで完成度を高めることができた。

<書道>

- ① 個別指導を重視して生徒個々の目標や課題を明確化させることにより、より完成度の高い作品制作をめざすことができた。
- ② 相互鑑賞やグループワークの機会を増やしたことにより、他者の意見や作品を取り入れて自分の作品を完成させていくことができた。
- ③ 以前よりはタブレットを授業の中に取り入れることができたが、まだまだ活用できる余地はある。

(4) 課題と次年度以降の改善策

<音楽>

限られた時間数の中で1年生は新しい楽器に主体的に取り組み、2年生は合唱と器楽の両方において高い技術を習得している。これまで以上に生徒間で教え合ったり、さらに自分たちの演奏を磨くことができるような授業づくりを展開したい。

<美術>

少ない授業時間のほとんどを制作活動に費やし、作品の完成度は向上している。しかし、基本的な理論に関して学習の定着が弱い部分もあり、学習内容の復習も丁寧に行いたい。

<書道>

1年生は導入部分の授業時数が十分ではなかったため、焦って説明などを急いでしまうことが多かった。内容を精選して、基礎的な臨書学習にはもう少し時間をかけ、表現する楽しさや喜びを味わわせられるように個別指導に重きを置きたい。

2年生は創作作品の制作が中心となるので、生徒が個々に持つイメージを大切にしながら、納得のいく作品制作ができるよう指導したい。

英 語 科

主任：伊藤 佐和子

(1) 今年度の目標

- ① 基礎・基本事項を定着させ、生徒個人に合った指導を行う。
- ② 積極的に英語で自分の考えを表現したり、英文で書いたりする姿勢を養うとともに、他の人の意見を聞き取り、それに対して自分の意見を言ったり質問したりする能力を養う。
- ③ 計画的・自主的学習習慣を養う。

(2) 主な取り組みの計画

- ① ア 授業の予習・復習に確実に取り組ませる。
イ 1年生では「英語の構文150」を、2年生では「速読英単語」「Smart Reader」を定期試験と学力テストに出題し、基礎・基本事項を定着させ、応用問題にも対応した語彙・文法・語法・構文にも取り組ませる。
ウ 1年生の論理・表現Ⅰでは、少人数クラスで授業を実施し、文法を定着させながらスピーキング力やライティング力を養う。2年生の論理・表現Ⅱにおいても少人数クラスで授業を実施し、クラスの実情に応じて授業内容も変化させる。
エ 3年生は教科書や問題集を使って基礎・基本事項を定着させ、個別に添削等を行い、大学入試に向けて実践に即した力を身につけられるようにする。
- ② ア 1年生ではALTによるインタビューテスト、Show & Tell、ミニディベートを実施する。
イ 2年生ではALTによるエッセイライティング、プレゼンテーションを実施する。
ウ 3年生ではALTによるプレゼンテーション、大学入試等の実践に即したエッセイライティングを実施する。
エ 全学年でリスニング力を身につけるための教材に取り組ませる。また、自分の意見や考えを表現する力を養うため、オンライン添削を実施する。
- ③ 自学用の参考書や問題集をもたせて、定期試験、学力テスト、校内模試に向けて計画的に学習に取り組ませる。また、週末課題を実施し、家庭学習の充実を図る。

(3) 成果

- ① 1年生では「DUAL SCOPE 総合英語」と各単元の練習問題に取り組ませることで基本文法の定着を図ることができた。また、「英語の構文150」や記述式の長文問題集を課題として提出させ、英作文を書く力や読解力を向上させることができた。2年生では1年生で学んだ文法を復習しながら、入試問題の英作文に挑戦させたり、「速読英単語」「Smart Reader」や記述式の長文問題集を課題として提出させたりすることで、入試問題の長文読解に対応できる力を身に付けさせることができた。

校外学力テスト 1年長文読解得点率 7月 50% → 11月 55%

2年長文読解得点率 7月 56.2% → 11月 63.5%

- ② 1年生は、Show & Tell、ジャーナル（日記）、インタビュー、ミニディベート、2年生は、パラグラフライティング、インタビュー、グループディスカッション、3年生は、プレゼンテーション、場面の説明、入試問題の英作文など、各学年でALTとのチームティーチングによる様々な活動に取り組ませ、ALTが生徒の英語を評価し、定期テストの評価にも加えることで、生徒が積極的に自分の考えを英語で話したり、書いたりする能力を高めることができた。また、全ての学年においてオンライン添削を実施し、与えられたテーマについて自分の考えを自由に表現する機会を増やすことができた。
- ③ 各学年で自学自習用の参考書や問題集に取り組ませ、学習への意欲・態度を図る課題として、定期テストの評価に含めることで成果を上げた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

授業アンケートでは、「授業の内容についての説明が分かりやすいと思うことが多い」の項目に関して、82.4%が当てはまると評価し、生徒はおおむね授業に満足しているという結果であった。また、「タブレット等は授業内容の理解や英語力の向上に役立っている」の項目では、83.9%が当てはまると回答し、ICTを用いた授業が成果を上げている。今後も研修会や研究大会等を通してICTを使用した新たな取り組みを研究し、授業改善に努める。

家 庭 科

主任：浅井 千賀

（１）今年度の目標

- ① 人の一生を考えるという視点から、生活に関する知識と技術を総合的に学習させる。
- ② 興味・関心をもって生活課題を工夫改善する態度を育成する。

（２）主な取り組みの計画

- ① 生徒の生活力の伸長を視野に、生活を学ぶことに興味をもてる教材の工夫と改善。
 - ア 中学校での既習事項や他教科との関連を図り、生徒の実態にあわせた教材を選定する。
 - イ デジタルコンテンツ等を活用し効果的で効率のよい教材を取り入れる。
 - ウ 『模擬体験や作業学習』の取り入れによる自ら気づき学ぶ姿勢を育成し、生徒同士の情報交換を促す。
- ② 学習過程を大切にした問題解決学習『ホームプロジェクト』の実践
 - ア 授業で学んだ知識や技術を自らの生活に生かし、応用する力を育てる。

(3) 成果

①ア 生徒の現在の生活や、卒業後の生活を見据え、日常に取り入れられること、応用できることをできる教材として取りあげるようにした。特に栄養素の働きや食品の特性については、実験等を通して科学的に理解できるようにした。

授業評価アンケートの結果から、毎日の生活の中で最も身近に感じ、関心の高い食生活については、年間を通して取り組むようにした。

イ 口頭での説明だけでは想像しにくい分野については、できるだけ実物を用意し、五感を使って感じ、理解が深まるように工夫した。また、Power Pointでの写真や図を用いた説明や、教材提示装置での師範などを積極的に行った。耳で聞くだけよりも、視覚等から入った情報はより生徒の記憶に残っており、理解も深まっていると感じた。

ウ コロナ禍で、中学校で全く調理実習をしていない生徒が大半であったため、とても意欲的に取り組む一方で、基本的な技術の習得ができておらず、今までの学年に比べて実習にやや時間がかかった。

② 授業で学んだことを机上で終わらせず、家庭生活に取り入れ、自らの生活をつくり、生活改善を図ることが教科の最大の目的である。食生活の分野は、生徒が興味を持ちやすい分野であり、実習後の感想文やアンケートでは、実習内容を家族のために家庭でもう一度実践したという生徒や、卒業後一人暮らしをしたときに生かしたいという生徒も多くみられた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

授業の内容を単に知識の記憶にとどまらず、納得、理解し、様々な要素を関連付けて考えられるようになること、つまり実生活で応用できる力をいかに育てるかが課題である。定期試験で、理由や根拠を問う問題や、既習の内容と関連付けて答える問題を出題することで、生徒の理解度がよく分かった。次年度以降、生徒自身が考え、創造できる内容を授業や試験問題の中に取り入れたい。

情 報 科

主任：香川 裕之

(1) 今年度の目標

- ① 情報や情報技術を活用するための知識と技能を修得する。
- ② 情報に関する科学的な見方や考え方を養う。
- ③ 社会の中で情報や情報技術が果たしている役割や影響を理解する。
- ④ 情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育む。

(2) 主な取り組みの計画

- ①『情報化の進展が生活や社会に及ぼす影響を認識させる』ことにより、情報社会に参画する態度を育む。
 - ア 情報社会における問題点とその対策について、講演や動画教材などで学ばせる。
 - イ テックLESSン等の副教材を持たせ、授業以外でも主体的に個別に学べる環境を用意し、必要な時に知識や技能を身につけるように指導する。
 - ウ タブレット端末の利用法の指導などを通じて、インターネットに接続する仕組みや、利用時の注意点を学習し、安全で効果的なインターネットの利用方法を学ばせる。
- ②『デジタル・ネットワークについての学習』を通して情報の科学的な理解を図り、情報の安全技術の仕組みを理解させる。
 - ア デジタル情報の特徴や演算の仕組みを学び、コンピュータの特性を学習させる。
 - イ 「ネットワークや情報システムの仕組み」について理解を深めさせ、安全に情報をやり取りするための技術を学習させる。
- ③『コンピュータを用いた実習（問題解決、シミュレーション、プログラミング）』に取り組ませることにより、社会の中で情報や情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、情報活用の実践力を育成する。
 - ア コンピュータを用いた問題解決を学習する中で、表計算ソフトを利用したデータの分析や、モデル化・シミュレーションを活用できるようにする。
 - イ 問題解決のための手段として、生徒がプログラミングや統計的手法を学び、実践的な問題解決に応用できるように、基本的な考え方を指導する。
 - ウ プログラミング学習ソフトであるテックLESSンなどの情報サービスを使って個別最適化された学習環境を利用し、情報サービスを使った問題解決を体験させることで問題解決の意識を育む。
- ④『プログラミング言語 Python によるプログラミング』を学び、プログラミングの技術データ活用に対応できる能力と態度を育む。
 - ア 定期的にプログラミングの課題を体験・提出することで、プログラミング力向上とプログラムコードを読み解く技術を身につけさせ、プログラミングに対する関心と応用力を高める。
 - イ 「Python を活用した AI 技術」を体験することで、プログラミングの設計思想を学び、プログラミングを通して社会に貢献する意識をもってコミュニケーションを深めていけるような態度を育成する。

(3) 成果

- ① 新課程「情報Ⅰ」の指導も3年目となり、この学年が受験する共通テスト「情報Ⅰ」にもより思考力を要する問題が出題されることが予想されるため、プログラミング学習を中心に、補助教材も活用しながら、ICT機器を積極的に活用する態度を養う実習を行った。
1 学期：レポート作成練習、Web ページデザイン学習
2 学期：EXCEL によるデータ分析実習、コンピュータを用いた実習（シミュレーション、Python プログラミング）
3 学期：プログラミング学習（探索、並べ替え）、オリジナルプログラム作成（Python）
- ② 「ネットワーク」「組織による安全対策」などの学習を通して、生徒にコンピュータやネットワークの仕組みについて理解する機会を設けた。
ア iPad 等の利用方法や各種サービス（Google for Workspace, Teams 等）の利用を通して、SNS の使い方や情報モラル・セキュリティ意識の向上を図った。
イ テーマに沿った動画を視聴したり、レポート（Web デザイン、プログラミング）を作成することで、著作権の考え方などを、実践的な立場からの理解を目指した。
- ③ 表計算ソフトを用いてのデータの整理・分析やグラフの作成を行い、探究課題の発見や課題発表に役立つ技術を習得させた。
ア データサイエンス学習を通して正しくデータ活用して判断する能力を育成し、情報発信の際の注意点などを確認させた。
イ グラフやシミュレーションを自分で作成することで、見た目だけでなく数値やデータに注目する重要性和効果的に見せるための工夫について理解を深めさせた。
- ④ 授業アンケートでは50%近い生徒が情報を難しいと感じているが、情報自体には関心があり、真面目に取り組んでいる姿が見られる。さらに情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育む必要がある。
ア 日々進化している情報化の話題を授業の中でも紹介することで、情報化のスピードとその実態をなるべくリアルタイムに実感できるようにした。
イ より具体的な課題で実習に取り組むことで身近にある各種サービスと情報の授業の関連に気づかせ、定期的なプリントや副教材（Web 教材）の利用を通して、生徒が自主的に課題に挑戦できる工夫をした。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ① 次年度の1年生が持つ端末はChromeBookになり、上級生や指導者が持っているiPadとは異なる。同じサービスであるが違う端末で操作する感覚を養ってもらいたい。
- ② 1年生で学んだ「情報Ⅰ」の知識やスキルを、3年生の受験対策時にすぐに復習できるように維持してもらうことが必要である。2年生以降も情報機器を使いこなしながら情報活用を学ぶ機会を増やしていく工夫をしていく。
- ③ 情報教室のPC（2026年3月までリース）はWindows10であり、2025年10月にはサポートを終了する。教室のPCは決まったサイト以外は利用できなくするので、後期からは情報教室でも生徒自身の端末を利用させる必要がある。
- ④ 生徒が特に難しいと感じているプログラミングの技術や思考力は、一朝一夕には身につかない。2年生以降も、思考力を磨いていく練習を続けていけるよう、プログラミング検定などの一般サービスの紹介もしていきたい。

総合的な探究の時間（ＴＰ・テーマプロジェクト）

主任：市場 公美

（１）今年度の目標

- ① 自ら学び考える態度や探究心を育成する。
- ② 関連する資料を収集・分析する能力を育成する。
- ③ プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を育成する。
- ④ 将来のグローバルリーダーとして必要な知識や態度を育成する。

（２）主な取り組みの計画

- ① ア １、２年次の課題探究では、グループごとに探究題や探究計画を立案し、必要に応じて外部指導者の助言を受けながら探究を進める。
イ ３年次のＴＰでは、前期は自分の進学先での学びの内容や学び方を整理し、決意表明シートを書く。後期は、現代社会が直面している諸課題を考察する。
- ② ア １、２年次の課題探究では、グループごとの協議で探究を進め、タブレットを有効活用し、必要な資料等を収集・分析を行う。
イ ３年次のＴＰでは、教科横断的な様々な課題について必要な資料等を収集・分析し、レポートにまとめる。
- ③ ア １、２年次の課題探究は、プレゼンテーションや質疑応答を含めた中間報告会や分野別発表会を実施する。
イ ３年次のＴＰでは、授業ごとのまとめとして、発表する機会をつくる。
- ④ ３年間を通して、グローバルリーダーとして必要な知識や態度を育成するための講演会を実施する。
- ⑤ ＴＰ講演会を行い、社会が抱える課題に対する関心と教養を育み、探究活動に生かす。

(3) 成果

1年次では、マイナビの教材を使いながら、生徒と担当教員との話し合いを通して、地に関連した探究題を立てられた。

2年次では、1年次のときに決定した探究題を引き続き探究し、昨年度よりも内容を掘り下げて分析・考察できた。2年生の一部は、JR四国と連携して地域が抱える課題について探究した。11月17日に丸亀エリア観光ツアーを企画し、「Why?丸亀～ぶらり歴史さんぽ～」 「丸亀食行脚」の2つの日帰りコースを考え、一般の方を案内した。とても好評をいただいた。JR四国の方からも企画、実践が素晴らしいとお誉めの言葉をいただいた。

3年次では、前期ではマイナビの教材を使って、進学先での学びを生かし、社会でどう貢献するか考えた。進学先での学びについてまとめ、「どんなふうに学ぶか」整理し、「なぜ学ぶのか」その目的について深く考えることができた。最後に、決意表明シートを作成し、発表した。後期では、科横断的な現代の諸課題について、授業ごとに課題に対する考察や分析を行い、その結果を発表できた。

報告会・発表会では、タブレットで作成したスライドを用いてプレゼンテーションを行い、校内の教員や外部の方からのによる指導助言が行われ、生徒が見落としている部分など知ることができた。

多田野奨学会と京都大学との共催による探究講演会を開催し、「『生き物たちの個性と多様性』～みんな違ってみんな幸せ～」について講演者と共に考えることで、生物多様性を考えることができた。また、創立記念講演会や特別講演会、パリオリンピック帰国報告などで、先輩から様々な話を聞き、刺激を受けていた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

探究課題を設定する際に、問いの立て方が不十分なグループがいるので、マイナビの方に協力してもらいながら、講演の中で例（失敗例）を示してもらうなど工夫していきたい。

探究課題の進め方で、一部のグループが調べ学習で終わってしまったり、アンケートの取り方が課題にあっていなかったりする。教師が教えてしまうと、主体的な学びにならないので、探究活動の進め方について、他校のやり方を参考にしながら生徒に助言していく。

総務部

部長：白川 直美

副部長：松田 進

(1) 今年度の目標

- ① さまざまなPTA活動を通じて学校と家庭との情報交換を密にすることで学校教育と家庭教育の連携を図り、社会的に有為な人材の育成に努める。
- ② 生徒が母校を大切に思う心を育み、これまでの歴史・伝統を尊重するとともに諸先輩の事績を具体的に学び知ることによって、生徒自身が将来の目標を自主的に確立していけるように導く。

(2) 主な取り組みの計画

① PTA活動

- ア 「PTAだより」において、生徒の現況や本校の歴史・逸話を特集するなどして保護者に周知し、発展的な将来展望について啓発する。
- イ 保護者にPTA活動への参加を積極的に呼びかけ、より活性化するよう図る。各委員会・PTA行事が会員の研修および親睦の場となるよう、計画実施する。

② 同窓会活動

- ア 「記念館・同窓会館」を中心として、諸先輩の活躍の歴史を生徒に周知し、歴史・伝統ある本校で学校生活を送る自覚と誇りを育む。
- イ 創立記念講演、井上通女史墓参等を通じて、伝統の重みを実感させるとともに生徒各自の人格の陶冶を促し、将来設計の指針の一助となることを目指す。

(3) 成果

① P T A活動

ア 「P T Aだより」85号（7月）・86号（12月）を作成して学期末に配布するとともに、学校のホームページや配信メールなどを用いて学校の現況などについて情報発信をし、82.4%の保護者から肯定的な評価を得ることができた。

イ 各種委員会活動を活性化し、文化祭においてP T A活動の場を設けるなどして会員同士の研修および親睦を図るとともに、学校への関心を高めることができた。

② 同窓会活動

ア 入学当初のオリエンテーションや文化祭での公開を通じて記念館の紹介をし、諸先輩の事績に親しむきっかけを提供することができた。

イ 創立記念講演会のほか、官公庁やスポーツ界で活躍する先輩による講演会や報告会を実施し、生徒の進路意識を高める一助となった。

(4) 課題と次年度以降の改善策

① P T A活動

ア 会員の交流・親睦をさらに深め、よりよい信頼関係を構築することを目指し、ホームページや配信メールなどを活用して各行事について周知し、積極的な参加を呼びかける。

イ 各種委員会活動について、回数や場所など、会の持ち方を見直すことによって負担感を減らし、参加しやすくする。

② 同窓会活動

ア 記念館資料と卒業生寄贈図書の整理を進め、見学しやすい展示を工夫する。

イ 創立記念講演会など、諸先輩の事績を知る機会を設け、自らの将来について考えるきっかけとさせる。

教 務 部

部長：川原 一浩 副部長：秋友 秀一

(1) 今年度の目標

①教育課程の効果的な運用と編成

生徒の適性や進路目標を踏まえ、あわせて豊かな情操を養うことに留意して教育課程を効果的に運用する。全学年が新しい教育課程に移行したことを踏まえ、学習評価(観点別評価)を適切に行う。

②学習意欲と進路意識の高揚

授業でのガイダンスや、「テーマプロジェクト(総合的な探究の時間)」、進路学習など、学習活動全般を通して、生徒の学習意欲と進路実現に対する意識の高揚を図る。

③校務支援システムの活用

校務支援システムについて、有効かつ確実に運用されるようにする。

④情報機器の充実とその整備

校内で使用する情報機器を整備、管理する。

(2) 主な取り組みの計画

①すべての教科について、教育課程の実施状況を確認することにより適切な運用を図る。生徒の進路志望に対応するよう、新しい教育課程と学習評価(観点別評価)について、教科と連携して確認する。

②年度初めに「授業概要一覧表」(シラバス)を生徒に配付し、年間の学習計画及び学習進度を確認しやすくする。1年生のコース選択説明会が行われる時期に、2年用のシラバスの一部を提示し、コース選択の参考とさせる。また、学校行事とTP、ホームルームなどが連携できるよう研究する。

③校務支援システムのよりよい活用ができるよう、県教委、委託業者と連携し、現実的な運用に努める。

④職員の情報機器活用環境を計画的に整備する。

(3) 成果

- ① 生徒の適性や進路目標を踏まえた教育課程を運用することができた。学習評価(観点別評価)について、教科内で検討を重ねながら適切に取り扱うことができた。
- ② 授業内で、一人一台タブレット端末を使っている利点を生かし、2、3年生のシラバスは、PDFデータで配信し、日頃から授業進度や評価方法等を確認できた。学校行事、TP、HR等の取り組みにより、生徒の進路意識の向上につながった。
- ③ 校務支援システムの不具合は、担当教員と業者と協議し、改善につながることができた。校務支援システムに関わる役割を分担することで、引き続き教員の負担軽減と効率的なシステム運用に努めたい。
- ④ 全学年の一人一台タブレット端末の導入により、学校生活における様々な場面でICT機器を効果的・効率的に利活用することができた。教員も、ホワイトボードやプロジェクター、自動採点システムなどのソフトウェアを積極的に利活用する場面が見られ、校務の効率的運用や業務量の削減、教員のスキルアップにつながった。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ① 全学年が新学習指導要領による学習内容になったため、3年間を見通した授業進度、評価の状況、評価方法等を継続して確認したい。また、共通テストや各大学の入試科目の決定状況を把握し、生徒の進路実現に対応できるよう、継続して教育課程の見直しに努める。
- ② 今年度に引き続き、2、3年生のシラバスはPDFデータで配付し、一人一台タブレット端末を利用した、効果的な利活用に努めたい。また、学校行事とTP、ホームルーム等が連携し、より効果的な教育活動が展開できるよう研究する。
- ③ 校務支援システム担当の負担を軽減するため、操作できる教員の権限を広げ、一人当たりの業務量の軽減と安定したシステム運用が図られるように努める。
- ④ 全学年に一人一台タブレット端末が導入されて3年目となり、全教室にホワイトボードとプロジェクターが設置されたことで、様々な教育活動でそれらが利活用されるようになった。研究授業等でICTを利活用した授業をおこなうことで、複数の教員で指導方法等を検討し、新しいソフトウェアの活用法も含めて、教員の更なるスキルアップを図るための情報共有や研修をおこなう。

進路指導部

部長：久保 博信

副部長：佐野 英二

【1年】自分の将来について考えさせる

(1) 今年度の重点目標

- ① 学習と生活の習慣を確立させる
- ② 自分の進路と適性を考えさせる
- ③ 進路に応じた学習活動を開始させる

(2) 実施内容

- ① 職業や大学の研究と高い志望の設定
…(進路HR、学力テスト、校外模試、英語外部検定、キャンパスツアー)
- ② 自律した生活習慣と家庭学習の確立
・予習・授業・復習のサイクルの確立と継続的な学習計画の立案、実行
…(学習状況調査、進路HR)
- ③ 適切な文系理系の進路選択…(進路HR、コース選択説明会)

【2年】将来をより具体的に見つめ、行動を開始させる

(1) 今年度の重点目標

- ① 具体的な進路と学習の目標を設定させる
- ② 目標に向けた具体的な学習活動の早期開始

(2) 実施内容

- ① 大学・学部研究…(進路HR、オープンキャンパス)
- ② 目標実現のための学習活動の実践
・基礎基本の徹底と中だるみの抑制 …(進路HR、課外、面接)
・高い意識を持つ生徒の層への対策
…(キャンパスツアー、校外模試、英語外部検定、面接)
- ③ 学年後半からの意識改革…(3年0学期、校外模試、進路HR)

【3年】進路目標実現への努力を通して自分を磨かせる

(1) 今年度の重点目標

- ① 高い志と粘り強い姿勢を維持して進路目標の実現を図らせる
- ② 学習活動を通して、社会性・人間性を高める。

(2) 実施内容

- ① 高い目標を掲げて着実に努力する姿勢、態度の涵養
・第1志望校の堅持…(面接、進路HR)
・1年間を見据えた学習計画の作成と実行 適切で主体的な進路選択
…(進路HR、面接)
・基礎基本の徹底から応用力の育成へのスムーズな移行
…(課外、校内・校外模試)
- ② 周囲と協力して物事にあたる姿勢や感謝の気持ちの育成 …(進路HR)

(3) 成果

校内模試、学力テストは、業者の模試（進研模試等）に比べて、本校生の現状の学力を見据え、その向上を図るための作問、そして正確な採点を行うため、教員にとっても作問力を鍛え、授業力の向上にもつながる。また生徒にとっても高い目標を達成するために、その目指すべきところを示唆する良問を解くため、作問、採点、返却時の面談は、丸亀高校の生命線となる。今年度から「校内模試偏差値と合否結果の相関表」を作成することで、客観的に自分の現在の立ち位置を生徒自ら把握できるようにした。また、主に3年には校内模試の教科ごとの成績推移グラフも一人一人、面談時に配布し、校内模試を有効に活用することができた。

キャンパスツアー（東京方面：東大、東工大、一橋大、お茶の水大、早稲田大、関西方面：京都大）も実施し、卒業生との面談を通して、大学に直に触れることができた。

進路説明会、進路講演会、コース選択説明会、進路HRも例年通り実施し、文理選択から始まる学部学科の研究等に取り組むことができた。

高校での学習は、その背景を知り、きちんと積み上げて行けば、大学2年くらいまでは特に問題なく進むことができるが、そうでない場合、大学について行けなくなることは多い。その意味で進路自主企画である「学問を愉しむ会」は今後、重要になってくると考える。授業力は進路指導の根幹であることを大切にしていきたい。

(4) 課題と次年度以降の改善策

① 校内模試の引き続きの充実（作問、採点、データの活用）

生徒の学力に対する意識を向上させる（点数を取るだけが学力ではない、その背景を意識することが大切であると理解させる）ため、また作問、採点を通して教員の授業力を向上させるためにも、校内模試の充実を引き続き図りたい。また、今年度と同様、その結果を生徒、担任に還元できるようにしていきたい。

② キャンパスツアーの実施

大学に出向くことは大切なことであるが、その現場で生徒の先輩である本校卒業生と面談することは、さらに大切なことである。幸い、本校卒業生の本校生徒を迎え入れてくれる態度は、本当に頭の下がる思いがするほど見事なものである。この行事を通して丸亀高校としての縦のつながりを引き続き育てていきたい。

③ 「学問を愉しむ会」の実施

今年度は9/23、11/2、11/23、12/14、2/15の5回の実施であった。来年度からも、学校行事も見据えて、継続的に実施し、生徒の渴望している「知への欲求」を満たしていきたい。

生徒指導部

部長：福原 毅 副部長：福家 真一

（１）今年度の目標

- ①人格のより良い発達をめざし、自律的な生活態度や好ましい人間関係を育てる。
- ②規律ある学校生活を送ることにより、社会規範や法秩序を尊重する精神を培う。
- ③交通ルールと交通マナーを守り、事故防止、自他の安全の確保を徹底させる。

（２）主な取り組みの計画

- ①ア：全校集会で講話を行い、自主的・自律的な生活態度を育成する。
 - イ：登校指導を行い、挨拶がしっかりとできるように声掛けをする。
 - ウ：生徒が安心して学校生活を送れるよう、「学校生活に関するアンケート調査」の実施や面接週間時に担任より悩み事を聞いてもらい、いじめ等の実態を把握する。
- ②ア：全校集会で講話を行い、自主的・自律的な生活態度の育成やマナー指導を行う。
 - イ：毎月服装検査を行い、服装の整備を図る。違反者に対しては事後指導を行う。
 - ウ：遅刻生徒に対しては早朝登校指導を行い、基本的生活習慣を身に付けさせる。
 - エ：週番活動を通して、環境の整備と基本的な生活態度を育成する。
 - オ：講演会（自転車交通安全教室・情報セキュリティ講座・薬物乱用防止教室）を行い、規範意識の向上を図る。
- ③ア：全校集会で講話を行い、交通ルールの順守や交通マナーの指導を行う。
 - イ：学期始めの校外立哨指導や毎月の登校指導で、交通マナーの育成、及び事故防止の意識を高める。
 - ウ：自転車運転免許講習・丸亀警察署による交通安全教室・交通ホームルーム等を行い、交通ルールの順守や交通マナーの育成、及び事故防止の意識を高める。
 - エ：丸亀警察署と連携し、月１回の朝の街頭指導を行う。
 - オ：県は自転車乗車中のヘルメット着用の推進に向けた取り組みとして、今年度高校生に対しヘルメット購入費補助事業を実施することとした。このことを全校集会や文書、ＰＴＡ総会等で生徒及び保護者に周知し、ヘルメットの着用意識を高める環境づくりに協力する。

(3) 成果

- ① 「学校生活に関するアンケート」や面接を実施後、気になる生徒は関係職員に報告し情報共有することで、早期に対応できている。
- ② 高校生によるSNS上の問題が多発しているが、情報部と連携を図りながら被害者、加害者にならないよう安全な利用や情報モラルの向上についての注意を呼びかけたことで、本校では大きな問題は発生していない。
- ③ 外部講師による具体的な講演や自転車運転免許講習、交通ホームルームを行ったことで、交通法規や事故後の対応について確認できた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ① 昨年度に比べ挨拶ができる生徒が増えてはいるが、もっともっと増えて欲しい。特に部活動顧問の力を借りながら、自発的に挨拶ができる生徒を増やしていく。
- ② ・昨年度より週番活動を通して各クラス学級委員長が呼びかけを行っているが、今年度は昨年度に比べ服装違反者が増加した。週番によるクラスへの呼びかけや教員が見たらその場で注意する、また生徒会の力も借りながら指導徹底をはかる。
 - ・生徒に持たせている一人一台タブレット端末の使用について、校内ルールを守れていない生徒もいて注意を行った。ICT活用推進担当教諭と協力して使用ルール遵守を強化する。
- ③ ・依然として登下校中の自転車事故が多かった。自転車通学者だけでなく徒歩通学者も含め並列で登校している生徒、徒歩通学者のなかで参考書を読みながら、音楽を聴きながら登校している生徒もいて注意を行った。マナー面も含め周りの迷惑や事故につながる事への呼びかけを適宜行い、毎月実施している登校指導及び丸亀警察署との合同交通指導、学期初めの交通立哨指導も引き続き行う。
 - ・ヘルメット購入費補助申請及びヘルメット着用についての周知を繰り返し行ったが、あまり効果がみられていない。再度、文書やPTA総会等で保護者への周知を行っていく。

教育相談部

部長：荻田 千佳子 副部長：浅井 千賀

（１）今年度の重点目標

- ① 生徒実態の把握
- ② 関係職員、保護者、専門機関との連携
- ③ 研修活動の充実

（２）主な取り組みの計画

① 生徒の実態の把握

- ア 心理検査 i-check を１年生対象に実施する。実施時期を、５月に実施し、１学期中に生徒の状況を分析・把握できるようにする。
- イ 保健室利用状況から、心に問題を抱える生徒を把握する。
- ウ 担任や授業担当者との情報共有、生徒連絡会、学校生活アンケート、入学前アンケートから問題を抱える生徒を把握する。学年団会での情報を教育相談部内で共有し、早期対応ができるようにする。

② 関係職員、保護者、専門機関等との連携

- ア SC から可能な範囲でカウンセリング内容を聞き取り、担任に知らせる。
- イ 特別支援教育委員会との協働を図るとともに、個々のケース会を実施し、関係職員全員の共通理解を図る。必要があれば、個別の指導計画を担任と共に作成する。
- ウ 保護者と密に連絡を取り合う。
- エ SC や SSW、専門機関との連携を図り、適切な支援を行う。

③ 校内研修会の実施、及び外部研修会への参加

- ア 職員への現職教育を実施する。（８月末職員会議後を予定）
- イ 校外で行われる様々な研修に参加する。

(3) 成果

① 生徒実態の把握

- ア 心理検査 i-check を 5 月に実施し、その結果を生徒の抱える問題の把握に活用することができた。
- イ 養護教諭との連絡を密にすることにより、問題を抱える生徒を把握するだけでなく、生徒の考えや何に困っているかを知ることができ、より具体的な支援につながった。
- ウ 教育相談部会を行うことで情報を共有することができ、問題を抱える生徒を見守ることができた。

② 関係職員、保護者、専門機関との連携

- ア スクールカウンセラー（以下 SC）との面接を行った生徒や保護者について、担任や教育相談担当が知っておけば良いことを聞き取り、支援に役立てた。
- イ 特別支援教育委員会との協働を図るとともに、個々のケース会を実施することで、共通理解を持ったうえで、支援の方向性の決定や職員の役割分担を速やかに行うことができた。
- ウ 状況に応じて、教育相談担当者や担任、養護教諭等が保護者と連絡を取り、生徒や家庭の状況を把握することができ、個々の状況に応じた支援を行うことができた。
- エ SC やスクールソーシャルワーカー（以下 SSW）等の様々な専門家、生徒の主治医、社会福祉協議会等と連携を図り、個々の状況に応じた支援体制を構築することができた。

③ 校内研修会の実施、及び外部研修会への参加

- ア 校内現職教育（8/29 実施）を、養護教諭を講師として行った。近年生徒の抱える身体症状として増えている脳脊髄液漏出症（減少症）や起立性調節障害等の正しい理解につながった。
- イ 様々な研修について、教育相談部だけでなく他の職員にも知らせた。8 月～11 月にオンラインで行われた、こどもの自傷・自殺に関する研修に教育相談部より希望者で参加し、見識を深めた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

生徒の問題を把握した段階で、関係する部署や職員と密に連絡を取り、学校全体で適切な情報共有を図るという対応を強化する。問題を抱える生徒に関わる先生方（特に担任）のサポートを行う。必要があれば病院や社会福祉等の関係機関とも連携し、早期の対応ができるようにする。

特別活動部

部長：大西 亜紀

副部長：安藤 優太

(1) 今年度の目標

- ① 生徒会の自主的、自律的な企画・運営
- ② ホームルーム委員会、自由テーマのホームルームの活性化
- ③ ボランティア活動の活性化
- ④ 部活動を通して、規則を守り礼儀正しく、お互い協力し助け合う豊かな人間の形成

(2) 主な取り組みの計画

- ① 生徒会の自主的自律的な企画・運営のために
 - ア 教員・一般生徒との連絡を密にとる。
 - イ 生徒会室の整備とデータ・資料の整理をする。
- ② 自由テーマのホームルームの活性化に向けて
 - ア 事前指導を充実させる。
 - イ ホームルーム委員の運営力育成に向けて担任との連携を強化する。
- ③ ボランティア活動の活性化に向けて
 - ア 丸亀支援学校交流会事前研修・準備・周知活動を充実させる。
 - イ 地域のボランティア活動（募金等）に積極的な参加をめざす。
- ④ 規則を守り礼儀正しく、お互い協力し助け合う豊かな人間の形成に向けて
 - ア 校則や集団の決まりを守らせ、所属感や連帯感を身につけさせる。
 - イ 挨拶や美化活動等を、自主的、自発的に行う態度や習慣を身につけさせる。

(3) 成果

① 生徒会の自主的自律的な企画・運営のために

ア 昨年度の反省を生かしながら、行事の改善化を進めていくことができた。行事内容の見直しをすることで、内容の簡略化などができた。

イ 各年のデータを参考に、行事等を実施することができた。

② 自由テーマのホームルーム活動の活性化に向けて

ア ホームルーム委員が自分たちで企画・運営をするよう事前に指導した。特に1年生については、過去の実施事例を紹介したりするなどして、クラスの仲が深まる企画を考えさせた。

イ 年間計画や実施記録簿を作成させた。計画は担任と連携しながら行い、実施後は振り返ったことを次のホームルーム活動に生かした。実施記録簿については、例年以上に丁寧に記入するよう指導し、記入内容の点検も徹底した。

ウ 3年生のスポーツレクリエーションは、クラスの垣根を越えて学年単位で行った。内容は生徒からの意見をもとにホームルーム委員が中心となって考え、運営も生徒のみで行った。

③ ボランティア活動の活性化

ア 参加生徒は事前研修・準備・当日の活動を通して、丸亀支援学校の生徒や斯文祭展示（ふれあいの部屋）の来場者と積極的に関わり、様々な人と接し共生する社会の一端を体験することができた。また「ふれあいだより」を通して他の生徒に対して活動内容を周知した。

イ 各種募金活動はふれあい委員が中心となり、クラスへの周知・取りまとめを行った。その他、地域や団体主催のボランティア活動については、Classiを用いて効果的に周知することで、各種ボランティアに7名の生徒が応募し、積極的に活動に取り組んだ。

④ 部活動を通して、規則を守り礼儀正しく、助け合う豊かな人間

ア 部長会を実施し部長を中心に部活動のルール徹底や活性化に取り組むよう指導した。しかし、部室の施錠、鍵の保管状況等に問題のある部がみられ再指導を行ったが以降改善がみられた。

イ 気持ちの良い挨拶ができている部活動は多くなっている。活動場所、部室等の美化について学期毎に点検を行ったため、意識の向上ができてきた。

(4) 課題と次年度に向けての改善策

① 生徒会役員と教員、一般生徒の間の密な連絡を十分に取りながら、学校一丸となって行事の企画・実施をしたい。各年のデータをまとめ、次年度の行事に生かせるようにしていきたい。

②ア 自由ホームルームを通して、自分を他者に表現し、自他の違いを認め合えるようにしたい。ホームルーム手帳については、このような課題を改善できるよう、内容の見直しを図る。

イ スポーツレクリエーションについては、生徒の企画のため安全性に配慮が行き届いていないことがある。事前準備の段階で教員が企画をきちんと指導するとともに、当日も安全に配慮した教員配置を継続していく必要がある。

③ 生徒のボランティア活動への意識がそれほど高くないように思われる。募集及び報告について、掲示するだけでなく広く呼びかけるなど工夫する。

④ 部長、理事を集団のリーダーとして成長を目指すことに重点をおき、顧問と連携しながら取り組みたい。各部の大会、発表会や校内行事の機会をとらえ、部員の一員として自発的に美化活動や挨拶ができるように指導する。

人権・同和教育部

部長：市村 拓二

副部長：藤原 誠司

(1) 今年度の目標

- ① 生徒一人ひとりが主体的に人権課題について考えることができるホームルームを構築する。
- ② 各教科・科目、校務分掌でのすべての領域に人権教育の視点を導入する。
- ③ 現職教育をさらに進める。
- ④ 機会をとらえ人権意識の重要性について全体に働きかけていく。
- ⑤ PTA活動を通じて、保護者への啓発活動をさらに進める。
- ⑥ 地域との連携を深め、差別の現実から学ぶ。

(2) 主な取り組みの計画

- ① 参加体験型の人権・同和教育ホームルームの回数の漸進的増加と差別解消に向けての実践力の育成
 - ア 2年生を対象に同和問題学習会を行い、その成果をホームルームで発表して「差別の現実学ぶ」体験を学級の生徒と共有する。
 - イ 各学年団のホームルームのなかで参加体験型の人権・同和教育の比重を増やすとともに、ICT機器を積極的に活用する。
 - ウ 参加体験型ホームルームの構築に向けて、校内研修を行うとともに、各種研修会へ人権・同和教育部教員が積極的に参加する。
- ② すべての教育活動における人権教育的視点の導入と研修機会の提供
 - ・職員会議にタイムリーな話題を提供したり、昨今の人権・同和教育の動向を紹介したりして、研修回数を増やす。
- ③ 全校集会などの機会を捉えて全体に人権尊重の重要性を訴えていく。
- ④ 保護者啓発の推進
 - ・人権講演会への参加を促し全保護者への啓発を推進するとともに、現職教育にも招待して教員と保護者がともに学ぶ機会を設ける。PTA役員を中心に市や県の研修に参加を依頼する。学期に一回、保護者向けに人権・同和教育だよりを発行し、人権教育への理解を促し啓発に努める。
- ⑤ 地域との連携
 - ア 教員に現地研修会や夏祭り、文化祭への参加を呼びかける。
 - イ 同和問題学習会のなかで、同和地区において差別解消に向けて努力している人と生徒との意見交換を行う。またそれをホームルームで共有する。

(3) 成果

- ①ア 人権・同和教育ホームルームについては、計画通り、2年生ホームルーム委員による同和問題学習会を12月に実施し、翌月のホームルームでそれを各クラスで発表をし、学級全体で学びを共有することができた。
- イ 参加体験型のホームルームは昨年度並みに取り入れて実施した。またICT機器を積極的に活用したことで、効率的に多くの学習内容を盛り込むことが可能となり、また生徒どうしが意見を共有することで、多様な価値観や考え方を理解しあう機会を増やすことができた。
- ウ 参加体験型ホームルームの構築に向けて、人権・同和教育部会や学年団会を通じて、校内研修を実施することができた。
- ② 今年度はセクシャルマイノリティーの問題を取り上げ、当事者の方から講話を聴き、性の多様性について理解を深めることができた。昨年度に続き、全・定・通とも大勢の教職員が参加した。また現地研修会や各研究大会等の参加報告も予定通り実施した。
- ③ 人権講演会は全学年が参加し、骨髄移植を受けた方と骨髄提供者の方の双方から講演を聞き、命の尊さについて考えを深めるよい機会となった。献血者が増えるなど、生徒の意識にも変化があった。また1年生2学期の障がい者のホームルーム、今年度より新たに始めた2年生1学期のアイヌの人々の人権問題は、学年集会形式で実施した。
- ④ 今回初めて現職教育に保護者の参加があり、教職員と学びを共有する貴重な機会となった。人権講演会には、少数ではあるが保護者も参加した。PTA総会での講話も例年通り実施した。PTA研修委員・育成委員が中心となって、予定していた香川県や丸亀市が主催するすべての研修会に参加できた。保護者版「人権だより」は、今年も配信形式で実施したことで、多数の保護者から貴重な声を頂くことができた。熱心に取り組まれているとの好評を多くいただき、今後の活動にも大きな励みとなっている。
- ⑤ア 現地研修会は二軒茶屋総合センターで実施し、保護者の方にも参加していただいた。また夏祭りや文化祭へも参加できた。
- イ 金山文化センターから講師を招き、差別解消に向けて努力している方と生徒との意見交換を行うことができた。また参加生徒は「差別の現実学ぶ」意義を認識するとともに、この問題を「自分ごと」としてとらえようとする姿勢がうかがえた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

今年度はホームルーム計画を改編し、課題解決に一定の成果があった。一方で、各回の指導内容や使用教材はここ数年大きな変更はなく、とくに視聴覚教材は年代の古さを感じざるを得ない。次年度以降は、指導内容の見直しをしつつ、新たな教材の発掘にも努めたい。また参加体験型のホームルームは昨年度並みにとどまり、いかにして生徒の主体的な活動の機会を増やしていくかが今後の課題である。

保健部

部長：桜井謙一郎 副部長：柳谷 貴子

(1) 今年度の目標

- 1 生徒、職員の心身の健康の保持増進
- 2 防災対策と地震発生時の安全行動の確認
- 3 積極的な清掃活動による環境美化と生活環境の整備
- 4 校内の設備・備品の把握と故障、破損した備品の修理、交換

(2) 主な取り組みの計画

1① 健康診断

- ア 事前に「健診の意義」や見つかる病気等について周知し、健康に関して関心を持たせるとともに、自分の健康状態について把握できるようにする。
- イ 健康診断の結果、異常がある場合は、早めに医療機関に行くように生徒に指導するとともに、懇談などの機会を利用して保護者にも連絡する。

② 健康管理

- ア 心肺蘇生法の講習会（実施日：6/17 1年生・教職員対象）を行う。
- イ 保健室来室時に「利用カード」を記入させ、体調を崩した原因や生活習慣について考えさせる。
- ウ 保健室前の掲示板や黒板に、様々な健康に関する資料を掲示することにより、生徒が健康に関して興味や関心を持つようにさせる。

③ 生徒保健委員会

- ア 「保健だより」を作成して、SHRなどでその時々健康に関する説明を行う。

④ 心の健康

- ア 保健室利用状況を担任や学年主任等に知らせることにより、心の問題を抱える生徒を早期に発見し、関係職員やスクールカウンセラーおよび保護者と連携し、支援する。
- イ 3年生対象にスクールカウンセラーによるメンタルヘルスの講演会を行う。

⑤ 性教育

- ア 2年生はHRで外部講師による命の大切さについての講演会を行う。

⑥ 環境の整備

- ア 水質検査、教室の照度や空気検査など「環境検査」の結果を知らせて環境に関心を持たせる。
- イ 冷暖房時の温度設定や換気など「適切な管理」ができるようにする。

⑦ 学校衛生委員会

- ア 衛生委員会を年間10回開催し、職員の健康増進を図り、職場環境を整備する。

2 防火・防災

- ア 学校防災計画を策定し、避難訓練や1年生を対象に防災訓練を実施する。

3 清掃活動

- ア 日々の清掃や学校行事前等の大掃除を充実させ、校内くまなく美化が図られるようにする。
- イ 清掃用具の修理、補充を適切に行い、十分に清掃活動が行えるようにする。
- ウ 安全点検や部室点検を学期に1回実施し、危険箇所を早期に把握し、修繕する。

4 施設管理

- ア 各教室の机・椅子の数を把握・修理を行い、老朽化したものは計画的に交換する。

(3) 成果

① 生徒、職員の心身の健康の保持増進

- ①ア 健康診断と同時に健康相談の時間を設けたことによって、生徒が直接専門医と話をする機会を得ることが出来た。
 - イ 治療勧告通知を、健康診断翌日に生徒に手渡したことが、早期受診につながった。
- ②ア 心肺蘇生法講習会を、全定通教職員と1年生を対象に、6月（日本赤十字香川県支部）と10月（丸亀市消防局）に2回実施し、技術の習得に努めた。
 - イ 保健室利用記録で生活リズム等を把握し、健康教育につなげることができた。
 - ウ 保健室前の廊下に設置している身長計・体重計・成長曲線掲示は利用者が多く、健康の自己管理能力向上につながった。
- ③ア 野球応援では、生徒保健委員が救護補助員として活動し、応援生徒の熱中症を未然に防ぐことができた。また、発育測定では、生徒保健委員が会場設営を行うことによって、効率的に進めることが出来た。
 - イ 地域学校保健委員会（学校保健委員会）を開催し、2年生対象に開催した講演会「生命の安全教育－性被害の加害者にならない、被害者にならない、傍観者にならないために－」の内容について、保護者（PTA）にも周知する機会を設けた。保護者からは、「内容が良いので、是非多くの保護者、教員に聴いてもらいたい。」という感想が多く寄せられた。
- ④ア スクールカウンセラーとの連携では、保健室が面談予約の窓口になっているため、予約が随時入り、生徒にとって利用しやすい窓口となっている。
 - イ 3年生を対象に、今年度は献血セミナー（10月）を開催した。献血バスは、7月と12月の2回来校したが、献血セミナー実施後の12月は献血協力者が増加した。
- ⑤ア 性教育は、2年生を対象に性被害に関する内容の講演会を開催した。生徒の感想では、性暴力の種類に関する内容が27.8%と最も多く、次に男性の被害に関する内容11.7%だった。質問内容も多く、生徒の関心度が高いことが分かった。
- ⑥ア 学校薬剤師の協力を得て、環境衛生検査に取り組んだ。学校薬剤師からは換気効率を上げる清掃方法について助言を得、生徒に周知して集団感染を防止した。
 - イ 感染症流行期には、授業開始5分間を完全換気とし、集団感染を防止した。
- ⑦ア 毎月の校内巡視結果を元に、特に施設設備面に関して改善することができた。（職員室に大型冷蔵庫を配置など）衛生委員会に準ずる取り組みでは、専門医や専門家による5種類の健康相談日を設けたことで、健康相談が定着しつつある。

② 防災対策と地震発生時の安全行動の確認

- ⑧ア 防災訓練に関しては、9月、1年生を対象に丸亀市危機管理課、丸亀市城西地区自主防災会、丸亀市川西地区自主防災会の協力を得て防災研修を実施し、訓練の大切さを実感させることができた。

③ 積極的な清掃活動による環境美化と生活環境の整備

- ⑨イ 環境整備委員が中心となり、各清掃場所の用具の修理、補充を計画的に行うことができた。

④ 校内の設備・備品の把握と故障、破損した備品の修理、交換

- ⑩ア 各教室の机・椅子に教室番号を記載し、移動した場合においてもスムーズに行うことができ管理しやすくなった。
 - イ ベランダ放置の黒板は、老朽化した物などを整理し、必要な物は再利用した。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ・校内巡視で危険個所の指摘があっても、予算の都合上すぐには改善できないものもある。こまめに注意喚起を行って、トラブルが発生しないようにする。
- ・心肺蘇生法講習会を6月の月曜日に実施したため、勤務日の関係で通信制教員・武道館関係者が参加できなかった。そのため、10月にも講習会を実施した。来年度は、日程調整をして1日開催にする。

教育研究部

部長：荒井 裕子 副部長：市場 公美

(1) 今年度の目標

- ① 教科・課題探究や学校行事でより教育効果が得られるように、読書週間などを活用して、図書館利用の促進を図る。
- ② 次世代のグローバルリーダーとして必要なスキル(情報収集力・発信力・語学力・コミュニケーション能力など)の育成のためのプログラムを実施し、あわせて各教科の科学オリンピック等への参加を促す方法を検討する。
- ③ 生徒にとってタブレットが「学びを深めるもの」になるよう、タブレット等のＩＣＴ教材を活用した授業研究を行い、教員全体の授業デザイン力の向上を図る。
- ④ 学校評価活動の改善について、実施内容や方法、学校評価書を本年度の実態に合わせ、教員の業務改善に、より大きな効果が得られるよう工夫する。

(2) 主な取り組みの計画

- ① ア 「図書館だより(図書館通信)」「図書委員活動」「サテライト図書室」等を利用し、読書活動の推進を図る。
イ 図書管理システムを運用する。
- ② ア 総合的な探究の時間を利用して以下の活動を実施する。
 - a 課題探究(情報収集力・コミュニケーション能力等の育成)
 - b T P講演会(社会が抱える課題に対する関心と教養を育み、探究活動に生かす)イ 生徒の各科学オリンピック等への参加を促すため、生徒一人一人への周知を行い、また各教科を支援し、それらの結果をとりまとめる。
- ③ ア 経年研修等で実施される研究授業に、各教科からも授業参観と合評会へ参加することで教員全体の授業デザイン力の向上を図る。また、授業参観週間での相互の授業参観の推進を図る。
イ タブレット等のＩＣＴを活用した授業研究を行い、研究授業等に取り入れる提案や研修を行う。
ウ キャリア・パスポートの作成等、タブレット等を効果的に活用できる方法を検討し、実施する。
- ④ ア 学校評価のための基礎資料収集を、項目などを精選して次のとおり行う。
 - a 生徒による授業評価
 - b 教員による自己評価
 - c 卒業間近の生徒による学校評価
 - d 卒業間近の生徒の保護者による学校評価イ 公開授業(4月、11月)のアンケート集計と分析を適切に行う。

(3) 成果

- ① ア 読書週間、図書委員活動（電子版図書だより、サテライト図書室）により、図書推進を図ることができた。「読書感想文コンクール」では、県の審査で優秀賞と優良賞を受賞している。職員の学校評価アンケートで「（本校の図書活動は）読書活動を推進している」は100%と高いが、3年生に対する学校評価アンケートで「（本校の図書活動は）読書のために有効である」は73.7%であった。また、「わからない」が19.8%と昨年より+14.2ptも高い。
イ 電子貸出システムが年間を通じ運用中である。
- ② ア 教科「TP」を参照
イ 「科学の甲子園」香川県予選に参加したが、優勝は逃した。
- ③ ア ICTやタブレットの活用を視野に入れた授業を研究し、研究授業を実施、教科での研究を行った。教員の「本校で実施した研究授業・授業参観等は本校職員の授業力向上に役立った」は89.6%で、昨年に比べて+2.5ptと、他の教員の授業を参考にしてICT活用を図りたい意識の表れではないかと思われる。
イ タブレットやプロジェクター等の情報機器や視聴覚機器の活用について、3年生に対するアンケートで「情報機器や視聴覚機器は理解を深めるために有効だった」は84.4%（昨年比-5.1pt）、職員の「情報機器や視聴覚機器は充実させている」が96.5%（昨年比-3.5pt）と、普通の授業でICT活用することが特別なものではなくなってきている。
ウ キャリアパスポートとしてClassiメニューの学習記録やポートフォリオを利用しているが、生徒へ浸透しておらず、積極的に利用されていないのが現状である。
- ④ ア 生徒による授業評価について、3年生に対する学校評価アンケートで「生徒からの授業評価が授業改善に活かされている」は67.5%（昨年比-2.6pt）と生徒の声を授業改善に活かしていると感じている生徒がいる一方で、「わからない」が13.4%と比較的高い。職員の「生徒からの授業評価は、授業改善が図られている」が96.5%であり、授業評価を授業改善に役立てようとしていることが分かる。
イ 公開授業は、1学期4月のPTA総会の時と、2学期11月の1年生のコース説明会に合わせて実施した。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ① アンケートでは生徒と職員と解答に乖離が見られ、読書を書籍で行うための取り組みではタブレット世代の生徒には響いていないのかもしれない。電子書籍を扱うことも考える必要がある。図書室の利用は理想的だと思われ、今後も引き続き読書活動の推進をしていく。
- ② 各種オリンピック等の参加はほとんどないという現状だが、生徒各自でオンライン参加となっているものもあり、学校が把握するのが難しくなっている。生徒の自主性、積極性を重んじながら、開催の案内をし、参加生徒へはポートフォリオへの入力进行を促す。
- ③ 授業に活用するためのタブレットやプロジェクターなどの情報機器、視聴覚機器が充実してきている。すべての教室にプロジェクターが整備され、授業の展開の幅も広がりを見せている。タブレット等を活用した授業研究を進めたり、使用に関する教員の情報共有の場を設けたりしたい。
- ④ 授業評価アンケートにおける授業改善について、生徒と職員の解答に乖離が見られる。アンケートはClassi等で集計されているが、生徒がどのような授業改善を望んでいるのか、アンケートの問いかけを各教科で工夫してもらいたい。職員の授業改善に向けてアンケート結果は活用されているという評価が多いので、今後とも続けていきたい。

定 時 制

(1) 今年度の目標

- ①主体的に学び続け、地域社会の課題の発見・解決に貢献できる生徒を育成する。
- ②自分の個性を伸ばし進路を切り拓いて、社会的・職業的自立ができる生徒を育成する。
- ③多様な他者と協働し、集団や社会に積極的に参画できる生徒を育成する。

(2) 主な取り組みの計画

授業や学校行事、生徒会活動、部活動等のあらゆる教育活動を通じて、以下の7つの力を育くむことができるように支援する。

① 読解力

文章や資料を正確に読み取り、主張や要点を把握し、その価値や意義を説明できる。

② 論理的思考力

適切な根拠をもとにして論理的に思考し、説得力や独自性のある考えを創り出すことができる。

③ 表現力

伝えたいことを、的確で説得力のある文章で表現し、相手に分かりやすく工夫して発表できる。

④ コミュニケーション力

相手の意見を理解し、聞き手のことを考えながら自分の意見を伝えることができる。

⑤ 協働力

所属する集団のなかで、自分の役割と責任を自覚し、集団としてめざす目標の達成にむけて活動できる。

⑥ 行動力・実行力

自分の発言や行動に責任をもち、やるべきことを自ら見つけて主体的に行動できる。

⑦ 自己管理力

自分の健康状態や環境を把握し、目標や目的に基づいて計画を立て、効果的で効率的な時間運用をすることができる。

(3) 成果

- ① 授業評価アンケートの主な項目では、生徒の多くが授業に関して前向きな回答をしている。前向きに授業を受けることにより、基礎学力の定着が促されるだけでなく、主体的に学び続ける姿勢の育成にも寄与すると考える。これからも、生徒と教員が協力しあい、よりよい授業づくりを行いつつ、生徒が前向きに授業を受ける環境を作っていきたい。
- ② 社会的・職業的自立ができる生徒を育成するために、上級学校（今年度は専門学校）を訪問し、外部から講師を招き進路講演会を行った。進路に関する行事を行うことで、卒業後の進路について考える機会を生徒に与え、生徒の進路意識を高めるきっかけ作りを行うことができた。これからも、継続して生徒に進路に関する情報を提供し、行事を活用しながら生徒の進路意識を高めていきたい。
- ③ 学校行事を活用することで、多様な考え方に触れたり他者と一緒に活動したりする機会を確保した。各種行事では生徒のはつらつとした様子を随所で見ることができ、また、講演会等の感想からも前向きな意見を読み取ることができた。学校行事を通して、他者を尊重しお互いに協力しあうことができる集団作りをこれからも行っていきたい。

(4) 課題と次年度以降の改善策

課題として、家庭状況等も含めた一人ひとりの持つ背景が多様であり、いかに個に応じた指導を行っていくかが挙げられる。毎日のミーティングや週1回の職員会を活用し、生徒の状況をしっかりと共有しながら生徒の指導を行う。

通 信 制

(1) スクール・ミッション

自律的な学びを通して、社会生活の基盤となる資質・能力や態度を身につけるとともに、自ら高め、自他を尊重する心を持ち、自立して社会の中で生き抜く力を育成することができる学校をめざす。

(2) めざす生徒像

- ① 自学自習をととして自主的・主体的態度を身につけ、社会で生きるために必要な能力をもつ生徒を育成する。
- ② 自分を大切にし、他者への思いやりをもち、社会に適応できる能力のある生徒を育成する。

1年次目標

- ア) 自学自習の習慣を身につけ、レポートを作成する力を身につける。
- イ) スクーリングに慣れ、授業に積極的に出席できるようにする。
- ウ) 学校行事に参加し、生徒同士や教員との親交を深める。

2年次目標

- ア) 自分にあった科目選択を行い、興味・関心をもって、意欲的に学習をする。
- イ) 自身の適性について考え、卒業後の進路についての意識をもつようにする。
- ウ) 学校行事に積極的に参加し、協働して活動する。

3年次以降目標

- ア) 明確な進路意識をもち、自身の適性を理解した上で進路選択を行う。
- イ) 自学自習で身につけた主体的に学びに向かう力を生かして、生涯にわたって学ぶ力を身につける。
- ウ) 学校を中心として行事を企画し運営するなかで、人間性と社会性を育てる。

(3) 成果

1年次目標

- ア) 自学自習の習慣を身につけ、レポートを作成する力を身につける。
- イ) スクーリングに慣れ、授業に積極的に出席できるようにする。
- ウ) 学校行事に参加し、生徒同士や教員との親交を深める。

2年次目標

- ア) 自分にあった科目選択を行い、興味・関心をもって、意欲的に学習をする。
- イ) 自身の適性について考え、卒業後の進路についての意識をもつようにする。
- ウ) 学校行事に積極的に参加し、協働して活動する。

3年次以降目標

- ア) 明確な進路意識をもち、自身の適性を理解した上で進路選択を行う。
- イ) 自学自習で身につけた主体的に学びに向かう力を生かして、生涯にわたって学ぶ力を身につける。
- ウ) 学校の中心として行事を企画し運営するなかで、人間性と社会性を育てる。

- ① 受講科目手続き時や新入生研修、及び各学年次のLHRで、生徒に対し必要な指導を行い、報告課題・面接指導（視聴票）・定期考査等の相互に関連したシステムを適切に運営しつつ、生徒の自学自習と単位取得及びその過程での人的成長を支援した。
- ② 新入生研修、新入生歓迎行事、定通総体（県・全国）、生活体験発表会（校内・県）、斯文祭、レク大会、研修旅行・遠足、生徒総会を実施し、協働的態度や人間性・社会性の伸長を支援した。
- ③ 希望する生徒に対し、進学指導や就職指導を行った。1月末現在で、卒業見込者30名のうち、進学内定者が11名、就職内定者が4名である。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ① 通信制課程独自のシステム（報告課題・面接指導・視聴票・定期考査等）への理解が不十分な状態で入学する生徒は学習中断や進路変更をする可能性が高めであるため、入学前の事前相談を手厚く行う。また、通信制課程のシステムを十全に理解している生徒でも、平日アルバイト等をしながら、報告課題に取り組み、日曜日には面接指導に通って、単位取得をすることは、そもそも困難なことであるため、そのような生徒に対しては、学級担任が、個別に必要な指導や支援をしていく。

学校評価アンケートでは、「毎日学校に通うのは困難である（40名／48%）」が、「高校は卒業しておきたい（72名／87%）」という傾向が顕著であった。また、「通信制のシステムを分かりやすく教えて欲しい」という要望が多い。（33名／40%）

- ② 持病がある生徒や人間関係の構築に苦手意識を持つ生徒が多いため、研修旅行や遠足等の行事の募集や運営が大変難しいが、運営形態を工夫することで、意欲のある生徒の活躍の場を確保する。

学校評価アンケートでは「学校行事や生徒会活動を充実させて欲しい」という要望は、教務関連の要望と比して、多くはない。（20名／24%、12項目中第5位）

- ③ 生徒の進路決定は、進学・就職担当者や担任の尽力に負うところが大きい。担任が進学先や就職先と適切に連絡・相談をすることで、トラブルを回避し、進路決定もスムーズに進めることができることが分かったので、課程内での情報共有や協働体制の構築を一層進める。

学校評価アンケート結果の比較（3年間）

①ほとんどあてはまる ②あてはまるところがある ③あまりあてはまるところがない ④ほとんどあてはまらない ⑤わからない

総務 A 1	教員	P T A 総会や P T A だより、学校ホームページの更新や学校配信メール等を通して、学校の実態を保護者に発信し、その理解・協力を得られている。
	3年生	
	保護者	丸亀高校では、P T A 総会や P T A だより、学校ホームページの改訂や学校配信メール等を通して、学校の情報を知ることができた。
教務 B 1	教員	校務支援システムは、本校の実情に応じて改訂・調整され、校務実施の助けとなっている。
	3年生	
	保護者	
教務 B 2	教員	生徒の適性や進路目標を踏まえ、豊かな情操を養うことに留意して、教育課程を編成し、適切に運用できている。
	3年生	丸亀高校では、生徒の適性や進路目標を踏まえ、かつ豊かな情操を養うことに留意した教育課程が編成されていた。
	保護者	丸亀高校における授業のカリキュラムは、生徒の適性や進路目標、そして情操に配慮した教育課程（授業のカリキュラム）を編成し、適切に運用されていた。
教務 B 3	教員	授業やホームルームにおける教師の指導や、「T P（総合的な探究の時間）」等での外部講師による講演会は、生徒の学習意欲と進路意識の高揚につながっている。
	3年生	
	保護者	
教務 B 4	教員	丸亀高校では、学校案内の発行等により、中高連携を図っている。
	3年生	
	保護者	
教務 B 5	教員	丸亀高校のシラバスは、生徒が1年間の学習計画を理解するために、役立っている。
	3年生	丸亀高校では、年度当初に配られたシラバスを見ることで、年間の授業計画の概要を理解することができた。
	保護者	
教務 B 6	教員	一人一台端末の導入を含めた授業等における I C T 機器の活用は、授業改善及び生徒の学びの改善につながっている。
	3年生	
	保護者	
進路 指導 C 1	教員	進路ホームルーム・コース選択説明会・キャンパスツアー等は、生徒が自らの志望と適性を見つめつつ、自らの進路目標を具体化させることに、有益である。
	3年生	丸亀高校における、進路ホームルーム・コース選択説明会・キャンパスツアー等の行事は、自らの進路について考えるよい機会となった。
	保護者	丸亀高校における、進路説明会・コース選択説明会等の行事は、進路について考えるよい機会となった。
進路 指導 C 2	教員	学習状況調査・進路ホームルーム・課外・面接等は、生徒の自律的な学習習慣の確立への力となっている。
	3年生	丸亀高校では、学習状況調査や進路ホームルーム、面接など、生徒が継続的な学習が行えるよう、適切な学習指導が行われていた。
	保護者	丸亀高校では、生徒に学習習慣が確立するよう、適切な学習指導が行われていた。
進路 指導 C 3	教員	丸亀高校では、生徒が自分の将来を考え、その実現のために努力ができるような指導が行われている。
	3年生	丸亀高校では、生徒が自分の将来を考え、その実現のための努力ができるような指導が、行われていた。
	保護者	丸亀高校では、生徒が自分の将来を考え、その実現のために努力ができるような指導が行われていた。
進路 指導 C 4	教員	丸亀高校での3年間の指導は、生徒を学力的・社会的・人間的に成長させるのに効果的である。
	3年生	
	保護者	生徒は、この3年間に様々な経験を経て、学力的・社会的・人間的に成長できた。

R6年度					R5年度					R4年度				
①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
73.3%	26.7%	0.0%	0.0%	0.0%	80.6%	19.4%	0.0%	0.0%	0.0%	65.0%	30.0%	0.0%	2.5%	2.5%
48.0%	39.0%	7.3%	1.7%	4.0%	55.7%	34.1%	8.1%	1.1%	1.1%	39.4%	43.3%	13.9%	1.4%	1.9%
46.7%	40.0%	6.7%	3.4%	3.2%	45.2%	45.2%	6.5%	0.0%	3.2%	32.5%	52.5%	5.0%	7.5%	2.5%
43.3%	56.7%	0.0%	0.0%	0.0%	51.6%	41.9%	0.0%	0.0%	6.5%	45.0%	47.5%	5.0%	2.5%	0.0%
48.1%	39.3%	6.5%	2.3%	3.8%	54.9%	33.6%	5.6%	1.1%	2.2%	55.6%	32.9%	6.0%	0.8%	4.8%
44.6%	40.1%	4.5%	1.1%	9.6%	44.9%	40.5%	6.5%	3.2%	4.9%	37.0%	41.3%	8.7%	1.4%	11.5%
36.7%	60.0%	3.3%	0.0%	0.0%	41.9%	51.6%	0.0%	3.2%	3.2%	40.0%	42.5%	10.0%	2.5%	5.0%
43.3%	30.0%	6.7%	0.0%	20.0%	48.4%	38.7%	0.0%	0.0%	12.9%	37.5%	45.0%	5.0%	5.0%	7.5%
23.3%	66.7%	0.0%	3.3%	6.7%	29.0%	51.6%	12.9%	3.2%	3.2%	30.0%	45.0%	17.5%	5.0%	2.5%
56.9%	28.6%	9.2%	0.4%	5.0%	60.8%	27.6%	7.1%	1.5%	1.1%	62.1%	27.3%	7.9%	0.4%	2.4%
43.3%	56.7%	0.0%	0.0%	0.0%	54.8%	45.2%	0.0%	0.0%	0.0%	45.0%	37.5%	7.5%	2.5%	7.5%
69.0%	31.0%	0.0%	0.0%	0.0%	58.1%	41.9%	0.0%	0.0%	0.0%	42.5%	37.5%	5.0%	2.5%	12.5%
51.5%	32.4%	7.6%	0.8%	7.6%	58.2%	28.4%	7.8%	1.1%	3.0%	53.0%	28.1%	10.4%	1.6%	6.8%
59.3%	30.5%	2.8%	0.0%	7.3%	64.3%	25.9%	6.5%	1.1%	2.2%	43.8%	37.5%	12.5%	1.9%	4.3%
55.2%	44.8%	0.0%	0.0%	0.0%	51.6%	45.2%	0.0%	0.0%	3.2%	42.5%	47.5%	2.5%	5.0%	2.5%
53.1%	36.6%	5.3%	0.8%	4.2%	65.7%	24.6%	5.2%	0.4%	1.9%	55.6%	33.6%	8.0%	0.0%	2.8%
48.0%	34.5%	7.9%	1.1%	8.5%	52.4%	35.1%	6.5%	1.1%	4.9%	39.9%	41.8%	9.6%	1.4%	7.2%
44.8%	55.2%	0.0%	0.0%	0.0%	51.6%	45.2%	0.0%	0.0%	3.2%	52.5%	40.0%	0.0%	2.5%	2.5%
50.8%	36.3%	6.1%	0.8%	6.1%	63.8%	27.2%	4.5%	1.1%	2.2%	50.0%	37.6%	8.0%	0.8%	3.6%
46.3%	37.9%	6.2%	0.0%	9.6%	56.2%	31.9%	5.4%	1.6%	4.9%	48.6%	38.5%	5.8%	1.0%	6.3%
38.0%	62.0%	0.0%	0.0%	0.0%	45.2%	51.6%	0.0%	0.0%	3.2%	40.0%	52.5%	0.0%	2.5%	5.0%
61.0%	31.6%	1.7%	0.0%	5.6%	69.7%	25.9%	1.1%	1.6%	1.6%	57.2%	37.5%	3.4%	0.0%	1.9%

学校評価アンケート結果の比較（3年間）

①ほとんどあてはまる ②あてはまるところがある ③あまりあてはまるところがない ④ほとんどあてはまらない ⑤わからない

教育研究 D 1	教員	丸亀高校では、図書館便り・読書感想文・学級文庫・読書の時間・サテライト図書室等を利用して、読書活動を推進している。
	3年生	丸亀高校の図書館便り・読書感想文・学級文庫・読書の時間・サテライト図書室などは、読書のために有効であった。
	保護者	
教育研究 D 2	教員	丸亀高校では、授業での活用を図るため、情報機器、視聴覚機器を充実させている。
	3年生	丸亀高校の授業・行事で活用された、プロジェクターやタブレット等の情報機器や視聴覚機器は、理解を深めるために有効だった。
	保護者	
教育研究 D 3	教員	丸亀高校では、生徒からの授業評価や、公開授業等を実施し、授業改善が図られている。
	3年生	丸亀高校で行われた、生徒からの授業評価は、授業に活かされていた。
	保護者	
教育研究 D 4	教員	丸亀高校では、英検等の検定による生徒の資格取得や科学の甲子園等への参加を促す活動を行っている。
	3年生	
	保護者	
教育研究 D 5	教員	丸亀高校で実施された研究授業・授業参観などは、本校職員の授業力向上に役だっている。
	3年生	
	保護者	
生徒指導 E 1	教員	丸亀高校では、生徒が自発的なあいさつを行ったり、相手を尊重した言動をとることができるようになるための指導が行われている。
	3年生	丸亀高校では、自発的なあいさつや、相手を尊重した言動をとることをうながす指導や雰囲気作りが行われていた。
	保護者	丸亀高校では、生徒が自発的なあいさつを行ったり、相手を尊重した言動をとれるようになるための助けとなるような雰囲気作りや指導が行われていた。
生徒指導 E 2	教員	丸亀高校では、早朝登校指導や校外交通立哨、服装検査、週番活動、外部講師を招聘しての講演会等を実施し、生徒の規範意識の維持・向上に努めている。
	3年生	丸亀高校では、服装の整備や時間厳守（遅刻）、私物の整理整頓等、学校生活に集中することをうながす指導や雰囲気作りが行われていた。
	保護者	丸亀高校では、早朝登校指導や校外交通立哨、服装検査等、生徒に基本的な生活習慣が身につくような指導が行われていた。
生徒指導 E 3	教員	丸亀高校では、交通指導、校外交通立哨、自転車運転免許講習、自転車交通安全教室等の交通ホームルームを行い、生徒の交通マナーの向上や事故防止への意識付けが図られている。
	3年生	丸亀高校における、交通指導や自転車運転免許講習、自転車交通安全教室等の交通ホームルームは、生徒の事故防止への意識付けや、交通マナーの向上に有効だった。
	保護者	丸亀高校における、交通指導、自転車運転免許講習や自転車交通安全教室等の交通ホームルームは、生徒が交通事故防止を意識したり、交通マナーを向上させるために有効だった。
特別活動 F 1	教員	丸亀高校では、充実した部活動ができるよう、各部への支援ができています。
	3年生	
	保護者	丸亀高校の部活動は、参加を希望する生徒の心身の健全な育成を図るために有効であった。
特別活動 F 2	教員	丸亀高校では、生徒会の活動を通して、生徒の自主・自律の精神が育成されている。
	3年生	丸亀高校の生徒会では、自由役員を含む生徒会役員と、それに協力する本校生徒を中心として、自主的・自律的な態度を育成する学校行事が適切に運営されていた。
	保護者	丸亀高校では、自由役員を含む生徒会役員と、それに協力する本校生徒を中心として、自主的・自律的な態度を育成する学校行事が適切に運営されていた。
特別活動 F 3	教員	丸亀高校では、ホームルーム委員会を中心に生徒自身による充実したホームルームの企画・運営が実施されている。
	3年生	丸亀高校のホームルーム活動では、ホームルーム委員会を中心とした、生徒による充実したホームルームの企画・運営を、実施できていた。
	保護者	
特別活動 F 4	教員	丸亀高校では、ふれあい委員会を中心としたボランティア活動を通して、生徒へのボランティア意識の啓発が図られている。
	3年生	丸亀高校では、全国高校総体ボランティア・募金活動・丸亀支援学校交流会等での活動を通してボランティアに関わる意識をうながす指導や雰囲気作りが行われていた。
	保護者	

R6年度					R5年度					R4年度				
①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
65.5%	34.5%	0.0%	0.0%	0.0%	70.0%	26.7%	0.0%	0.0%	3.3%	55.0%	35.0%	2.5%	2.5%	5.0%
47.7%	26.0%	6.5%	0.0%	19.8%	49.6%	28.7%	9.0%	1.5%	5.6%	53.8%	29.9%	10.4%	1.6%	4.4%
65.5%	31.0%	3.5%	0.0%	0.0%	83.9%	16.1%	0.0%	0.0%	0.0%	60.0%	35.0%	2.5%	2.5%	0.0%
65.3%	19.1%	6.1%	0.8%	8.8%	70.1%	19.4%	4.5%	0.4%	3.0%	51.8%	30.3%	14.3%	0.4%	3.2%
34.5%	62.0%	3.5%	0.0%	0.0%	48.4%	45.2%	0.0%	0.0%	6.5%	40.0%	50.0%	5.0%	2.5%	2.5%
30.9%	36.6%	16.4%	2.7%	13.4%	32.8%	37.3%	17.2%	3.0%	8.2%	35.2%	37.2%	16.8%	4.4%	6.4%
31.0%	51.7%	13.8%	0.0%	3.5%	41.9%	41.9%	6.5%	0.0%	9.7%	42.5%	35.0%	7.5%	7.5%	7.5%
41.3%	48.3%	6.9%	0.0%	3.5%	45.2%	41.9%	0.0%	3.2%	9.7%	42.5%	35.0%	10.0%	2.5%	10.0%
37.9%	48.3%	13.8%	0.0%	0.0%	25.8%	51.6%	19.4%	0.0%	3.2%	30.0%	42.5%	22.5%	5.0%	0.0%
43.1%	36.6%	14.9%	1.5%	3.8%	46.3%	34.7%	11.9%	1.5%	1.9%	33.9%	40.7%	19.8%	1.6%	4.0%
28.2%	37.3%	11.3%	0.0%	23.2%	39.5%	39.5%	7.0%	1.1%	13.0%	33.2%	37.0%	11.5%	0.5%	17.8%
51.7%	38.0%	10.3%	0.0%	0.0%	41.9%	51.6%	3.2%	0.0%	3.2%	60.0%	35.0%	0.0%	5.0%	0.0%
56.5%	33.2%	5.0%	1.1%	3.8%	57.1%	32.5%	6.0%	1.5%	1.1%	53.6%	35.3%	7.9%	0.8%	2.4%
34.5%	42.9%	10.2%	0.6%	11.9%	44.3%	38.9%	4.3%	2.7%	9.7%	35.6%	38.0%	11.1%	0.0%	15.4%
44.8%	51.7%	3.5%	0.0%	0.0%	48.4%	45.2%	3.2%	0.0%	3.2%	57.5%	35.0%	2.5%	2.5%	2.5%
46.9%	36.3%	7.3%	0.8%	8.8%	51.9%	33.2%	9.3%	1.1%	2.6%	45.8%	37.5%	10.7%	1.6%	4.3%
32.2%	35.6%	7.9%	0.0%	24.3%	43.8%	32.4%	5.9%	1.1%	16.8%	30.3%	38.9%	11.5%	0.0%	19.2%
55.1%	41.4%	0.0%	0.0%	3.5%	45.2%	51.6%	0.0%	0.0%	3.2%	52.5%	45.0%	2.5%	0.0%	0.0%
50.3%	29.9%	6.2%	3.4%	10.2%	63.8%	25.4%	4.9%	1.1%	4.9%	53.8%	34.6%	4.8%	1.0%	5.8%
51.7%	34.5%	3.5%	0.0%	10.3%	64.5%	29.0%	0.0%	0.0%	6.5%	47.5%	42.5%	7.5%	0.0%	2.5%
53.8%	26.3%	5.0%	1.5%	13.4%	68.3%	19.4%	2.6%	0.7%	4.5%	66.5%	22.0%	5.1%	0.8%	5.5%
51.4%	34.5%	4.5%	0.0%	9.6%	59.5%	29.7%	2.7%	1.1%	6.5%	46.6%	37.5%	5.3%	0.5%	10.1%
48.2%	41.4%	6.9%	0.0%	3.5%	64.5%	32.3%	0.0%	0.0%	3.2%	50.0%	40.0%	5.0%	0.0%	5.0%
72.9%	17.2%	2.3%	0.0%	7.6%	73.5%	17.5%	2.2%	0.7%	1.5%	72.8%	21.7%	3.9%	0.4%	1.2%
48.3%	51.7%	0.0%	0.0%	0.0%	74.2%	22.6%	0.0%	0.0%	3.2%	37.5%	42.5%	15.0%	0.0%	5.0%
35.5%	33.2%	19.8%	1.5%	9.9%	35.4%	37.3%	19.0%	2.2%	2.6%	26.4%	30.9%	33.7%	1.2%	7.7%

学校評価アンケート結果の比較（3年間）

①ほとんどあてはまる ②あてはまるところがある ③あまりあてはまるところがない ④ほとんどあてはまらない ⑤わからない

人権・同和教育 G 1	教員	丸亀高校における人権・同和教育ホームルームや講演会等を通じて、生徒は人権問題を自分の問題として捉え、人権意識を高めている。
	3年生	丸亀高校の、人権・同和教育ホームルームや講演会等は、人権に対する意識と理解を深めるのに役立った。
	保護者	丸亀高校の人権・同和教育ホームルームや人権講演会等は、生徒が人権に対する意識と理解を深めるのに役立った。
人権・同和教育 G 2	教員	丸亀高校では、現職教育・現地研修等を通して、人権・同和教育に関する教職員の知見を深め、指導力を向上させている。
	3年生	
	保護者	
人権・同和教育 G 3	教員	丸亀高校では、各教科・科目・校務分掌等に入権・同和教育の視点を取り入れることで、人権を意識した授業・学校運営を行っている。
	3年生	
	保護者	
教育相談 H 1	教員	丸亀高校では、教員相互の情報交換によって、援助を必要とする生徒の実態が把握されている。
	3年生	
	保護者	
教育相談 H 2	教員	丸亀高校では、援助が必要なケースにおいて、関係職員や保護者との連携により、状況に応じた支援ができています。
	3年生	
	保護者	
教育相談 H 3	教員	丸亀高校では、職員への現職教育や、個別のケース会議等により、教育相談的な理解を深めている。
	3年生	
	保護者	
保健 J 1	教員	丸亀高校では、生徒の健康管理に関する指導・支援を適切に行っている。
	3年生	丸亀高校では、生徒が主体的に健康管理できるように、指導・支援が行われていた。
	保護者	丸亀高校では、生徒の健康管理に関する指導・支援が適切に行われていた。
保健 J 2	教員	丸亀高校では、地震や火災などの非常時に対する準備と行動について、指導が行われている。
	3年生	丸亀高校で行われた防災訓練等は、地震や火災などの非常時に対する準備と行動について、理解を深めるのに役立った。
	保護者	
保健 J 3	教員	丸亀高校では、積極的な清掃活動により、生徒の環境美化に対する意識を高め、学校の生活環境を整えることができています。
	3年生	丸亀高校の校内生活環境は、生徒の清掃活動等により整えられていた。
	保護者	
保健 J 4	教員	丸亀高校には、学習環境を整えるためにふさわしい施設・設備・備品があり、大切に使われている。
	3年生	丸亀高校校内の施設・設備・備品は、大切に使われていた。
	保護者	丸亀高校には、学習環境を整えるためにふさわしい施設・設備・備品が整備されていた。

R6年度					R5年度					R4年度				
①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
51.7%	48.3%	0.0%	0.0%	0.0%	67.7%	32.3%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	45.0%	0.0%	0.0%	5.0%
57.6%	28.6%	5.0%	1.5%	7.3%	67.2%	22.0%	4.5%	0.7%	3.7%	59.7%	28.5%	8.3%	0.4%	3.2%
43.5%	33.3%	6.8%	0.0%	16.4%	51.4%	35.7%	4.9%	0.5%	7.6%	38.9%	38.9%	8.2%	0.5%	13.5%
55.1%	41.4%	3.5%	0.0%	0.0%	61.3%	35.5%	0.0%	0.0%	3.2%	37.5%	47.5%	7.5%	0.0%	7.5%
48.3%	48.3%	0.0%	0.0%	3.4%	51.6%	48.4%	0.0%	0.0%	0.0%	35.0%	52.5%	10.0%	0.0%	2.5%
62.0%	34.5%	0.0%	0.0%	3.5%	58.1%	41.9%	0.0%	0.0%	0.0%	62.5%	35.0%	2.5%	0.0%	0.0%
65.5%	34.5%	0.0%	0.0%	0.0%	61.3%	35.5%	0.0%	0.0%	3.2%	65.0%	30.0%	5.0%	0.0%	0.0%
62.1%	37.9%	0.0%	0.0%	0.0%	64.5%	35.5%	0.0%	0.0%	0.0%	60.0%	37.5%	2.5%	0.0%	0.0%
62.0%	34.5%	3.5%	0.0%	0.0%	67.7%	29.0%	0.0%	0.0%	3.2%	62.5%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%
39.7%	29.0%	7.6%	1.5%	22.1%	50.7%	32.8%	7.5%	0.0%	2.2%	45.4%	39.0%	10.4%	0.4%	4.8%
36.7%	37.3%	9.6%	0.6%	15.8%	44.9%	38.9%	3.2%	1.1%	11.9%	38.5%	40.4%	10.1%	1.0%	10.1%
51.7%	31.0%	10.3%	0.0%	0.0%	54.8%	32.3%	12.9%	0.0%	0.0%	50.0%	40.0%	7.5%	2.5%	0.0%
52.7%	35.5%	3.8%	0.4%	13.4%	54.5%	31.0%	8.2%	0.4%	4.5%	45.1%	40.3%	11.1%	0.4%	3.2%
27.6%	69.0%	3.4%	0.0%	0.0%	45.2%	45.2%	9.7%	0.0%	0.0%	40.0%	50.0%	10.0%	0.0%	0.0%
58.4%	26.3%	4.2%	1.1%	1.9%	65.7%	24.3%	3.4%	1.9%	3.0%	60.1%	31.2%	4.3%	1.6%	2.8%
48.3%	51.7%	0.0%	0.0%	0.0%	64.5%	32.3%	3.2%	0.0%	0.0%	42.5%	47.5%	0.0%	2.5%	7.5%
63.7%	25.6%	1.9%	0.0%	8.8%	72.0%	19.0%	3.0%	0.0%	1.9%	66.1%	24.7%	4.4%	0.0%	4.8%
37.9%	40.7%	7.3%	0.6%	13.6%	51.9%	37.3%	4.3%	2.7%	3.8%	42.8%	38.0%	9.1%	1.0%	9.1%

学校評価アンケート結果の比較（3年間）

①ほとんどあてはまる ②あてはまるところがある ③あまりあてはまるところがない ④ほとんどあてはまらない ⑤わからない

その他 K 1	教員	丸亀高校では、職員会議や学年団会、職員朝礼などを通して、教職員の意思疎通を十分に図れている。
	3年生	
	保護者	
その他 K 2	教員	丸亀高校では、面接指導を通して、進路や学習指導、生徒理解を深められている。
	3年生	丸亀高校での、教員との面接は、進路や学習の相談、生活設計にプラスになった。
	保護者	
その他 K 3	教員	丸亀高校における、学校行事の年間スケジュールには、昨年度の反省が反映されている。
	3年生	
	保護者	
その他 K 4	教員	丸亀高校における65分授業は、生徒に学習内容を理解・定着させるために効果的である。
	3年生	丸亀高校における65分授業は、学習内容の理解・定着に役立った。
	保護者	
その他 K 5	教員	丸亀高校では、授業を中心とした適切な学習指導が行われていた。
	3年生	丸亀高校では、適切な学習指導が行われていた。
	保護者	丸亀高校では、授業を中心とした適切な学習指導が行われていた。
その他 K 6	教員	丸亀高校における、2年次の習熟度別授業(数学)は、学習内容の理解・定着を促すための有効な取り組みである。
	3年生	丸亀高校における2年次の習熟度別授業(数学)は、学習内容の理解・定着に役立った。
	保護者	
その他 K 7	教員	丸亀高校では、1年次のホームルームを通じて、生徒は進路について考えることができた。
	3年生	
	保護者	
その他 K 8	教員	丸亀高校では、1・2年次の「総合的な探究の時間」は、探究的・協働的な学びを促すための有効な取り組みである。
	3年生	丸亀高校での、1・2年次の「総合的な探究の時間」では、他者との協働を通して、現代の諸課題について考えを深め、発表することができた。
	保護者	
その他 K 9	教員	「学校生活に関するアンケート調査」や面接を実施する等、いじめ防止に向けた取り組みが積極的に行われている。
	3年生	丸亀高校は、「学校生活に関するアンケート調査」や面接を実施する等、いじめ防止のための啓発活動や、いじめを訴えやすい環境づくりを行っていた。
	保護者	丸亀高校は、「学校生活に関するアンケート調査」や面接を実施する等、いじめ防止のための啓発活動や、いじめを訴えやすい環境づくりを行っていた。
その他 K 10	教員	
	3年生	丸亀高校では、文武両道を実現させるための適切な指導・助言が行われていた。
	保護者	丸亀高校では、文武両道を実現させるための適切な指導・助言が行われていた。
その他 K 11	教員	
	3年生	丸亀高校での生活は満足いくものだった。
	保護者	丸亀高校での生活は、満足いくものだった。

R6年度					R5年度					R4年度				
①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
48.3%	48.3%	3.4%	0.0%	0.0%	54.8%	32.3%	9.7%	0.0%	3.2%	37.5%	60.0%	2.5%	0.0%	0.0%
72.4%	27.6%	0.0%	0.0%	0.0%	67.7%	25.8%	3.2%	0.0%	3.2%	62.5%	35.0%	0.0%	0.0%	2.5%
58.0%	31.7%	5.7%	1.5%	1.5%	70.1%	20.1%	4.1%	1.1%	0.7%	67.6%	25.3%	4.0%	0.0%	3.2%
20.7%	48.3%	10.3%	0.0%	20.7%	35.5%	48.4%	6.5%	3.2%	6.5%	40.0%	42.5%	12.5%	0.0%	5.0%
48.3%	41.4%	0.0%	0.0%	10.3%	38.7%	41.9%	9.7%	0.0%	9.7%	35.0%	42.5%	20.0%	2.5%	0.0%
27.1%	42.0%	18.7%	7.6%	4.6%	39.6%	34.7%	16.4%	4.5%	2.2%	41.0%	37.5%	15.5%	2.8%	3.2%
65.5%	34.5%	0.0%	0.0%	0.0%	67.7%	32.3%	0.0%	0.0%	0.0%	57.5%	42.5%	0.0%	0.0%	0.0%
55.0%	35.5%	5.7%	0.8%	3.1%	65.7%	27.6%	3.7%	0.7%	1.1%	52.6%	33.6%	8.7%	0.8%	4.3%
49.7%	36.7%	4.5%	0.0%	9.0%	60.5%	27.0%	5.4%	1.1%	5.9%	45.7%	38.5%	6.3%	1.0%	8.7%
44.8%	24.1%	0.0%	3.5%	27.6%	51.6%	9.7%	0.0%	3.2%	35.5%	32.5%	32.5%	2.5%	2.5%	30.0%
49.6%	28.2%	9.5%	3.4%	9.2%	58.6%	24.6%	9.0%	2.2%	2.6%	46.9%	31.9%	14.6%	2.0%	4.7%
51.7%	27.6%	0.0%	0.0%	20.7%	48.4%	29.0%	0.0%	0.0%	22.6%	37.5%	40.0%	2.5%	0.0%	20.0%
27.5%	44.8%	13.7%	7.0%	7.0%	32.3%	25.8%	16.1%	6.5%	19.4%	30.0%	42.5%	12.5%	0.0%	15.0%
46.9%	27.1%	18.3%	4.2%	3.4%	38.4%	39.6%	15.3%	2.2%	1.5%	44.4%	36.1%	15.5%	2.0%	2.0%
68.9%	27.6%	0.0%	0.0%	3.5%	58.1%	38.7%	0.0%	0.0%	3.2%	42.5%	55.0%	0.0%	0.0%	2.5%
43.1%	34.7%	10.7%	2.7%	8.8%	52.2%	30.6%	9.0%	2.2%	5.2%	46.0%	30.6%	15.1%	1.6%	6.7%
35.0%	33.3%	8.5%	0.6%	22.6%	44.9%	27.6%	3.8%	1.1%	22.7%	31.3%	35.6%	9.1%	1.0%	23.1%
46.6%	32.1%	12.6%	1.9%	6.9%	46.6%	30.6%	13.8%	1.9%	3.0%	48.8%	32.1%	15.1%	1.6%	2.4%
43.5%	30.5%	9.6%	0.0%	16.4%	53.5%	33.0%	8.1%	1.1%	4.3%	45.7%	38.9%	8.7%	0.5%	6.3%
63.4%	22.1%	3.8%	0.8%	9.9%	73.5%	18.3%	1.9%	0.7%	2.2%	59.7%	30.0%	6.3%	1.2%	2.8%
56.5%	31.1%	5.1%	0.0%	7.3%	69.2%	23.8%	2.2%	0.5%	4.3%	51.9%	38.0%	6.3%	0.5%	3.4%

令和6年度学校評価アンケート用紙【3年生】集計結果（数値は％です）回答数272

①ほとんどあてはまる ②あてはまるところがある ③あまりあてはまるところがない ④ほとんどあてはまらない ⑤わからない（判断できない）

番号	評価項目	解答欄					④の理由をお願いします
		①	②	③	④	⑤	
1	丸亀高校では、生徒の適性や進路目標を踏まえ、かつ豊かな情操を養うことに留意した教育課程が編成されている。	48.1	39.3	6.5	2.3	3.8	・3年になってから受験科目の選択をするから。 ・理系で公共倫理の選択ができないのはよく分からない。 ・国公立しか見えていない。
2	丸亀高校では、年度当初に配られたシラバスを見ることで、年間の授業計画の概要を理解することができた。	56.9	28.6	9.2	0.4	5.0	
3	丸亀高校での教員との面接は、進路や学習の相談、生活設計にプラスになった。	58.0	31.7	5.7	1.5	3.1	・生産性がなかった。
4	丸亀高校では、学習状況調査や進路ホームルーム、面接など、生徒が継続的な学習が行えるよう、適切な学習指導が行われていた。	53.1	36.6	5.3	0.8	4.2	
5	丸亀高校における65分授業は、学習内容の理解・定着に役立った。	27.1	42.0	18.7	7.6	4.6	・無駄に長いだけ（思い出にはなかった） ・惰性で授業をしている先生が多いように思われる。 ・集中力が低下するので、50分6限（月曜は7限）の方がいいと思う。 ・集中できていると思えない。 ・時間があるから進度が遅くなりがち。
6	丸亀高校では、適切な学習指導が行われていた。	55.0	35.5	5.7	0.8	3.1	・先生による差がありすぎ ・1年で日本史を終えるのは無理がある。 ・タブレットをずっと使わない先生がいた。
7	丸亀高校で行われた、生徒からの授業評価は、授業に活かされていた。	30.9	36.6	16.4	2.7	13.4	・記入しても改善されなかった。
8	丸亀高校における2年次の習熟度別授業（数学）は、学習内容の理解・定着に役立った。	49.6	28.2	9.5	3.4	9.2	・先生との相性によると思う。 ・基準がよく分からない。ついていけず授業を無駄にした気がする。 ・下位クラスの授業が分かりにくかった。
9	丸亀高校での、1・2年次の「総合的な探究の時間」では、他者との協働を通して、現代の諸課題について考えを深め、発表することができた。	46.9	27.1	18.3	4.2	3.4	・誰と班になるかでだいぶ変わる。 ・難しすぎた。 ・やらされているだけでおもしろくなかった。 ・外部の方は協力してくださったが、チームの人の協力が得られなかった。
10	丸亀高校における、進路ホームルーム・コース選択説明会・キャンパスツアー等の行事は、自らの進路について考えるよい機会となった。	51.5	32.4	7.6	0.8	7.6	
11	丸亀高校では、生徒が自分の将来を考え、その実現のための努力ができるような指導が行われていた。	50.8	36.3	6.1	0.8	6.1	
12	丸亀高校では、文武両道を実現させるための適切な指導・助言が行われていた。	46.6	32.1	12.6	1.9	6.9	・二兎を追う者は一兎をも得ず。
13	丸亀高校では、服装の整備や時間厳守（遅刻）、私物の整理等、学校生活に集中することをうながす指導や雰囲気作りが行われていた。	56.5	33.2	5.0	1.1	3.8	
14	丸亀高校では、全国高校総体ボランティア・募金活動・丸亀支援学校交流会等での活動を通してボランティアに関わる意識をうながす指導や雰囲気作りが行われていた。	35.5	33.2	19.8	1.5	9.9	

番号	評価項目	解答欄					④の理由をお願いします
		①	②	③	④	⑤	
15	丸亀高校では、自発的なあいさつや、相手を尊重した言動をとることをうながす指導や雰囲気作りが行われていた。	43.1	36.6	14.9	1.5	3.8	
16	丸亀高校における交通指導や自転車運転免許講習、自転車交通安全教室等の交通ホームルームは、生徒の事故防止への意識付けや、交通マナーの向上に有効だった。	46.9	36.3	7.3	0.8	8.8	
17	学校は、「学校生活に関するアンケート調査」や面接を実施する等、いじめ防止のため、啓発活動やいじめを訴えやすい環境づくりを行っていた。	43.1	34.7	10.7	2.7	8.8	・そもそも丸高にいじめはない。
18	丸亀高校の、人権・同和教育ホームルームや講演会等は、人権に対する意識と理解を深めるのに役立った。	57.6	28.6	5.0	1.5	7.3	
19	丸亀高校で行われた防災訓練等は、地震や火災などの非常時に対する準備と行動について理解を深めるのに役立った。	52.7	35.5	3.8	0.4	7.6	・防災意識が欠けていた。
20	丸亀高校の生徒会では、自由生徒会役員を含む生徒会役員を中心として、自主的・自律的な態度を育成する学校行事が適切に運営されていた。	53.8	26.3	5.0	1.5	13.4	・先生の許可が厳しく生徒主体とは言えない環境だった。 ・選挙で選ばれてないのに自分が権力を持っていると思っている人が多い。 ・自由生徒会が他と連携できていなかった。
21	丸亀高校のホームルーム活動では、ホームルーム委員会を中心とした、生徒による充実したホームルームの企画・運営を実施できていた。	72.9	17.2	2.3	0.0	7.6	
22	丸亀高校の校内生活環境は、生徒の清掃活動等により、整えられていた。	58.4	26.3	4.2	1.1	9.9	
23	丸亀高校では、生徒が主体的に健康管理できるように、指導・支援が行われていた。	39.7	29.0	7.6	1.5	22.1	
24	丸亀高校の図書館便り電子版・読書感想文・学級文庫・読書の時間・サテライト図書室などは、読書のために有効であった。	47.7	26.0	6.5	0.0	19.8	
25	丸亀高校の授業・行事で活用されたプロジェクターやタブレット等の情報機器や視聴覚機器は、理解を深めるために有効だった。	65.3	19.1	6.1	0.8	8.8	
26	丸亀高校の施設・設備・備品は、大切に使われていた。	63.7	25.6	1.9	0.0	8.8	
27	丸亀高校での生活は満足いくものだった。	63.4	22.1	3.8	0.8	9.9	
	その他、意見があれば、書いてください。 ・紙で配るプリントが多すぎる。iPadの有効活用が為されていないと感じる。スマホの方が便利で使いやすい。 ・伝統にしがみつかずに、新しい柔軟な考え方を取り入れるべきだ。 ・タブレットの制限が強すぎてアクセスできないWebページも多く、活用できない。また、ネットにつながらないなどトラブルが多い。 ・卒業試験の時期の考慮をお願いしたい。共通テスト直前1週間を自由に使わせてほしい。 ・卒業試験をなくしてほしい。 ・卒業試験は共テ後にした方がいいと思う。 ・体育の授業で水泳が良かった。 ・進研模試の受験は任意にしてほしい。 ・始業式、終業式は気候に合わせてリモートでするべき。 ・今まで楽しい時間をありがとうございました。						

令和6年度学校評価アンケート用紙【3年生保護者】集計結果（数値は％です）回答数187

①ほとんどあてはまる ②あてはまるところがある ③あまりあてはまるところがない ④ほとんどあてはまらない ⑤わからない（判断できない）

番号	評価項目	解答欄					④の理由をお願いします
		①	②	③	④	⑤	
1	丸亀高校では、PTA総会やPTAだより、学校ホームページの更新や学校配信メール等を通して、学校の情報を知ることができた。	48.0	39.0	7.3	1.7	4.0	・今年度は行事予定が7月から更新されておらず、困りました。また、生徒の日々の様子をもう少しホームページで発信してほしかったです。
2	丸亀高校における授業のカリキュラムは、生徒の適性や進路目標、そして情操に配慮した教育課程(授業のカリキュラム)を編成し、適切に運用されていた。	44.6	40.1	4.5	1.1	9.6	
3	丸亀高校では、授業を中心とした適切な学習指導が行われていた。	49.7	36.7	4.5	0.0	9.0	
4	丸亀高校では、生徒に学習習慣が確立するよう、適切な学習指導が行われていた。	48.0	34.5	7.9	1.1	8.5	
5	丸亀高校における、進路説明会・コース選択説明会等の行事は、進路について考えるよい機会となった。	59.3	30.5	2.8	0.0	7.3	
6	丸亀高校における公開授業（授業参観）の実施は、学校での生徒の様子を知るよい機会となった。	46.9	27.1	11.3	0.0	14.7	
7	丸亀高校では、生徒が自発的なあいさつを行ったり、相手を尊重した言動をとれるようになったりするための助けとなるような雰囲気作りや指導が行われていた。	28.2	37.3	11.3	0.0	23.2	
8	丸亀高校では、早朝登校指導や校外交通立哨、服装検査等、生徒に基本的な生活習慣が身につくような指導が行われていた。	34.5	42.9	10.2	0.6	11.9	・だんだんと乱れてきているのでは？
9	丸亀高校における、交通指導、自転車運転免許講習、自転車交通安全教室等の交通ホームルームは、生徒が交通事故防止を意識したり、交通マナーを向上させたりするために有効だった。	32.2	35.6	7.9	0.0	24.3	
10	丸亀高校は、「学校生活に関するアンケート調査」や面接を実施する等、いじめ防止のため、啓発活動やいじめを訴えやすい環境づくりを行っていた。	35.0	33.3	8.5	0.6	22.6	
11	丸亀高校の、人権・同和教育ホームルームや人権講演会等は、生徒が人権に対する意識と理解を深めるのに役立った。	43.5	33.3	6.8	0.0	16.4	
12	丸亀高校では、文武両道を実現させるための適切な指導・助言が行われていた。	43.5	30.5	9.6	0.0	16.4	
13	丸亀高校の部活動は、参加を希望する生徒の心身の健全な育成を図るために有効であった。	50.3	29.9	6.2	3.4	10.2	・一部の顧問の先生の指導法に問題があった。 ・部活ばかりで大変そうだった。体調不良や忌引で休むことを怒られる。3年間先生に怯えて過ごしました。
14	丸亀高校では（自由役員を含む生徒会役員と、それに協力する本校生徒を中心として）自主的・自律的な態度を育成する学校行事が、適切に運営されていた。	51.4	34.5	4.5	0.0	9.6	
15	丸亀高校では、生徒の健康管理に関する指導・支援が適切に行われていた。	36.7	37.3	9.6	0.6	15.8	・インフルエンザが流行っていても集会をする。

番号	評価項目	解答欄					④の理由をお願いします
		①	②	③	④	⑤	
16	丸亀高校には、学習環境を整えるためにふさわしい施設・設備・備品が整備されていた。	37.9	40.7	7.3	0.6	13.6	・1クラスがぎゅうぎゅう ・他校のことが分からないので十分かどうか判断できない。 ・人数に対しての教室の狭さが気になりました。
17	丸亀高校では、生徒が自分の将来を考え、その実現のために努力ができるような指導が行われていた。	46.3	37.9	6.2	0.0	9.6	
18	生徒は、この3年間に様々な経験を経て、学力的・社会的・人間的に成長できた。	61.0	31.6	1.7	0.0	5.6	
19	丸亀高校での生活は、満足いくものだった。	56.5	31.1	5.1	0.0	7.3	
	その他ご意見があればお書きください。 ・女子のスカートの長さやメイク等、もっと厳しく指導するべきだと思う。特に後輩の代から派手な人が目立つようになってきた。 ・月間行事予定がずいぶん更新されていません。 ・3年間たいへんお世話になりました。中学では運動部でありながら活動日が少なく「やり切った」実感が得られないようでしたが、高校では思う存分練習に励む中で友達や先輩・後輩との関わりを深め、勉強と両立するための時間のやりくりをし、成績や記録以上のものを得られたようです。一生懸命やりきることの喜びと達成感を味わわせていただいたことに感謝しております。 ・インフルエンザの患者数が増加する中、始業式を全校生集めて体育館でする必要があるのか。コロナ禍で教室のリモート体制はできているように思えますが、高校三年生の共通テストが間近に迫っているので少し配慮をしてほしかったです。感染が広がってから対処を考えても遅いと思います。 ・3年間お世話になりました。有難うございます。(多数) ・一暴十寒 ・先生方の熱心で適切なご指導のおかげで子どもも成長でき、感謝しております。ありがとうございました。 ・意識の高い素晴らしい高校だと思います。 ・先生方忙しい中、部活動を熱心に指導していただきありがとうございました。 ・教師のデリカシーのない発言、生徒の教育以上に教師の教育を求めます。時代に合っていない。						

令和6年度学校評価アンケート用紙【教員対象】集計結果（数値は％です）解答数30

①ほとんどあてはまる ②あてはまるところがある ③あまりあてはまるところがない ④ほとんどあてはまらない ⑤わからない（判断できない）

識別番号		評価項目	解答欄					
			①	②	③	④	⑤	
総務	A 1	P T A総会やP T Aだより、学校ホームページの更新や学校配信メール等を通して、学校の実態を保護者に発信し、その理解・協力を得られている。	73.3	26.7	0.0	0.0	0.0	
教務	B 1	校務支援システムは、本校の実情に応じて改訂・調整され、校務実施の助けとなっている。	46.7	40.0	6.7	3.4	3.2	
	B 2	生徒の適性や進路目標を踏まえ、豊かな情操を養うことに留意して、教育課程を編成し、適切に運用できている。	43.3	56.7	0.0	0.0	0.0	
	B 3	授業やホームルームにおける教師の指導や、「T P (総合的な探究の時間)」等での外部講師による講演会は、生徒の学習意欲と進路意識の高揚につながっている。	36.7	60.0	3.3	0.0	0.0	
	B 4	丸亀高校は、学校案内の発行等により、中高連携を図っている。	43.3	30.0	6.7	0.0	20.0	
	B 5	丸亀高校のシラバスは、生徒が1年間の学習計画を理解するために役立っている。	23.3	66.7	0.0	3.3	6.7	
	B 6	一人一台端末の導入を含めた授業等におけるI C T機器の活用は、授業改善及び生徒の学びの改善につながっている。	43.3	56.7	0.0	0.0	0.0	
進路指導	C 1	進路ホームルーム・コース選択説明会・キャンパスツアー等は、生徒が自らの志望と適性を見つめつつ、自らの進路目標を具体化させることに、有益である。	69.0	31.0	0.0	0.0	0.0	
	C 2	学習状況調査・進路ホームルーム・課外・面接等は、生徒の自律的な学習習慣の確立への力となっている。	55.2	44.8	0.0	0.0	0.0	
	C 3	丸亀高校では、生徒が自分の将来を考え、その実現のために努力ができるような指導が行われている。	44.8	55.2	0.0	0.0	0.0	
	C 4	丸亀高校での3年間の指導は、生徒を学力的・社会的・人間的に成長させるのに効果的である。	38.0	62.0	0.0	0.0	0.0	
教育研究	D 1	丸亀高校では、図書館便り・読書感想文・学級文庫・読書の時間・サテライト図書室等を利用して、読書活動を推進している。	65.5	34.5	0.0	0.0	0.0	
	D 2	丸亀高校では、授業での活用を図るため、情報機器、視聴覚機器を充実させている。	65.5	31.0	3.5	0.0	0.0	
	D 3	丸亀高校では、生徒からの授業評価や、公開授業等を実施し、授業改善が図られている。	34.5	62.0	3.5	0.0	0.0	
	D 4	丸亀高校では、英検等の検定による生徒の資格取得や、科学の甲子園等への参加を促す活動を行っている。	31.0	51.7	13.8	0.0	3.5	
	D 5	丸亀高校で実施された研究授業・授業参観などは、本校職員の授業力向上に役立っている。	41.3	48.3	6.9	0.0	3.5	
生徒指導	E 1	丸亀高校では、生徒が自発的なあいさつを行い、相手を尊重した言動をとることができるようになるための指導が行われている。	37.9	48.3	13.8	0.0	0.0	
	E 2	丸亀高校では、早朝登校指導や校外交通立哨、服装検査、週番活動、外部講師を招聘しての講演会等を実施し、生徒の規範意識の維持・向上に努めている。	51.7	38.0	10.3	0.0	0.0	
	E 3	丸亀高校では、交通指導、郊外交通立哨、自転車運転免許講習、自転車交通安全教室等の交通ホームルームを行い、生徒の交通マナーの向上や事故防止への意識付けが図られている。	44.8	51.7	3.5	0.0	0.0	

識別番号		評価項目						
特別活動	F 1	丸亀高校では、充実した部活動ができるよう、各部への支援ができています。	55.1	41.4	0.0	0.0	3.5	
	F 2	丸亀高校では、生徒会の活動を通して、生徒の自主・自律の精神が育成されている。	51.7	34.5	3.5	0.0	10.3	
	F 3	丸亀高校では、ホームルーム委員を中心に、生徒自身による充実したホームルームの企画・運営が実施されている。	48.2	41.4	6.9	0.0	3.5	
	F 4	丸亀高校では、ふれあい委員を中心としたボランティア活動を通して、生徒へのボランティア意識の啓発が図られている。	48.3	51.7	0.0	0.0	0.0	
人権・同和教育	G 1	丸亀高校では、人権・同和教育ホームルームや講演会等を通じて、生徒は人権問題を自分の問題として捉え、人権意識を高めている。	51.7	48.3	0.0	0.0	0.0	
	G 2	丸亀高校では、現職教育・現地研修等を通して、人権・同和教育に関する教職員の知見を深め、指導力を向上させている。	55.1	41.4	3.5	0.0	0.0	
	G 3	丸亀高校では、各教科・科目・校務分掌等に人権・同和教育の視点を取り入れることで、人権を意識した授業・学校運営を行っている。	48.3	48.3	0.0	0.0	3.4	
教育相談	H 1	丸亀高校では、教員相互の情報交換によって、援助を必要とする生徒の実態が把握されている。	62.0	34.5	0.0	0.0	3.5	
	H 2	丸亀高校では、援助が必要なケースにおいて、関係職員や保護者との連携により、状況に応じた支援ができています。	65.5	34.5	0.0	0.0	0.0	
	H 3	丸亀高校では、職員への現職教育や、個別のケース会議等により、教育相談的な理解を深めている。	62.1	37.9	0.0	0.0	0.0	
保健	J 1	丸亀高校では、生徒の健康管理に関する指導・支援を適切に行っている。	62.0	34.5	3.5	0.0	0.0	
	J 2	丸亀高校では、地震や火災などの非常時に対する準備と行動について、指導がされている。	51.7	31.0	10.3	0.0	0.0	
	J 3	丸亀高校では、積極的な清掃活動により、生徒の環境美化に対する意識を高め、学校の生活環境を整えることができています。	27.6	69.0	3.4	0.0	0.0	
	J 4	丸亀高校には、学習環境を整えるためにふさわしい施設・設備・備品があり、大切に使われている。	48.3	51.7	0.0	0.0	0.0	
その他	K 1	丸亀高校では、職員会議や学年団会、職員朝礼等を通して、教職員の意思疎通を十分に図れている。	48.3	48.3	3.4	0.0	0.0	
	K 2	丸亀高校では、教員は面接指導を通して、進路や学習指導、生徒理解を深められている。	72.4	27.6	0.0	0.0	0.0	
	K 3	丸亀高校における、学校行事の年間スケジュールには、昨年度の反省が反映されている。	20.7	48.3	10.3	0.0	20.7	
	K 4	丸亀高校における、65分授業は、生徒に学習内容を理解・定着させるために効果的である。	48.3	41.4	0.0	0.0	10.3	
	K 5	丸亀高校では、授業を中心とした適切な学習指導が行われていた。	65.5	34.5	0.0	0.0	0.0	
	K 6	丸亀高校における、2年次の習熟度別授業(数学)は、学習内容の理解・定着を促すための有効な取り組みである。	44.8	24.1	0.0	3.5	27.6	
	K 7	丸亀高校では、1年次のホームルームを通じて、生徒は進路について考えることができています。	51.7	27.6	0.0	0.0	20.7	
	K 8	1・2年次の「総合的な探究の時間」は、探究的・協働的な学びを促すための有効な取り組みである。	27.5	44.8	13.7	7.0	7.0	
	K 9	「学校生活に関するアンケート調査」や面接を実施する等、いじめ防止に向けた取り組みが積極的に行われている。	68.9	27.6	0.0	0.0	3.5	

1 構成 学校評議員3名

2 評価の内容

【教育課程】

(香川) 全学年が新課程での学習となり、3年間の見通しを立てて学習に取り組む必要があると思います。大幅に変化した教科・科目もあると思うので、新課程移行の数年間は適宜、教育課程の見直しもフレキシブルに実施してほしいと思います。

(丸田) 65分授業についての生徒の評価が年々下がってきているのが気になります。今年は「①ほとんどあてはまる」が27.1%となり、原因解明が必要かと思われます。地歴の選択科目などいろいろと工夫されているのが分かりました。共通テストの科目も変わりました。65分がいいのか、コマ数が多い方がいいのか検証する時期かもしれません。

(小川) デジタルの部分を上手に利用しながら、大切なアナログな部分は残してほしい。新しい学習指導要領になってよかったと思える状況に早くなってほしい。

【学習指導】

(香川) タブレット端末を活用した取り組みが各教科で実施されているようです。教科の特性もあると思いますが、課題提出やアンケート集計で利用するだけでなく、生徒同士の意見交流や発表のツールとしてタブレット端末を積極的に用いてほしいと思います。受験等に向けた授業ではなく、生徒に学ぶ楽しさや難しい問題に挑戦する意欲を引き出すような授業を期待したいです。

(丸田) 学習に対する取り組みが多様な生徒たちに、面接や授業で丁寧な指導をされていることが分かりました。教員アンケートでは、多くの教科でタブレットを使用した授業に言及されています。授業参観でも、多くの授業で活用されていることが分かりました。また、全員の先生が「ICT機器の活用が授業改善・生徒の学び改善につながる」と回答され、教材の準備や生徒の個別指導など、先生方が意欲的に取り組まれている様子がうかがえました。

(小川) 各教科ともタブレットやQRコードなどを活用し、現代の高校生が興味を持って受け入れたり、学習の理解につながったりするよう工夫されているようだ。

【進路指導】

(香川) 進路HRや進路説明会、進路講演会、コース選択説明会など丁寧に実施されているとうかがえます。また、学習の本質だと思われる「学問を愉しむ会」を来年度も実施してほしいと思いました。

(丸田) キャンパスツアーだけでなく、校内での講演会や進路HRなど、進路関係行事の効果が出ているようでした。「学問を愉しむ会」の内容と生徒の参加率が知りたいと思いました。

(小川) キャンパスツアーで迎え入れてくれる大学や卒業生に限りがあるかもしれないが、高校側が進学させたい大学ではなく、生徒が興味ある大学に出向いていると信じたい。

【生徒指導】

(香川) 大きなSNSの問題が発生していないことは良いことだと思います。しかし、教員や保護者の見えない水面下で何らかの小さなトラブルは起きているかもしれませんので、情報モラルの向上についての呼びかけは続けてほしいと思います。自転車のルールについてはあまり知らない生徒もいるかもしれません。特に、スマホの

ながら運転やイヤホンをつけたままの運転などはとても危険ですので、自転車は「軽車両」であるということを十分に認識させる指導をお願いしたいです。

(丸田) 交通事故やSNS上の重大な問題が発生していないことは大変良いことだと思います。継続したご指導をお願いしたいと思います。ヘルメット着用についても継続指導をお願いします。保護者意見にもある、挨拶や服装指導については、生徒会や週番など生徒たちを巻き込んだ指導にも取り組まれているのが分かりました。ルールを守れない生徒自身の変容が必要ですので、引き続き指導をお願いします。

教育相談上配慮が必要な場合についても、関係機関と連携した支援ができる体制ができているようです。早めの対応をお願いします。

(小川) 自転車乗車時のヘルメット着用につながるような講習会や、着用したくなるような各種ヘルメットの紹介ができないだろうか。

【特別活動】

(香川) 今年度も文武両道の丸高生らしい活躍を拝見することができました。来年度の総文祭に向けて精力的に活動している様子もうかがえます。一方で、2年生では学習との両立で悩んで退部する生徒が増えたようです。本当は部活動を続けたかったのかどうかも含め、生徒にとってどのようなことが負担になったのかを知ることが必要だと感じました。できることなら、退部せずに3年間続けてほしいものです。

(丸田) 生徒を中心としたホームルームの運営についての質問に対し、72.9%の生徒が「①ほとんどあてはまる」と回答。素晴らしい。学級担任の回答は48.2%で、生徒に見えないご苦労があるのだらうと察します。

(小川) 人間性が高められる大切な活動で、生徒の自主性も尊重しつつ教員が上手に導くバランスがたいへんなのだと感じた。

【開かれた学校づくり】

(香川) 新聞やPTAだより等によって情報発信は十分にできていると思います。情報を知るためにはインターネットで検索することが多いと思いますが、今の時代に合わせてSNSを活用した情報発信をしてもよいかもしれません。インスタグラムを用いて学校行事を発信している学校もあるようです。新聞のような紙媒体もよいですが、リアルタイムでの発信も効果的だと思います。

(丸田) 丸高新聞、PTAだよりなどの紙媒体の情報提供は、従来通り丁寧に行われていると感じました。公開授業への保護者参加者も多く、良い効果があると思います。ただ、ホームページは項目により差が見られます。生徒にはタブレット配信しているのかもしれませんが、ホームページは保護者や一般の人々を対象としています。教育課程や月間行事予定など、適時の更新が望まれます。タブレットの利用記事は2021年のままになっています。せめて、前年度分の記事を掲載してほしいと思いました。

(小川) TPなどに取り組み、受験勉強だけでなく、人間形成にも大切な高校生活になっていると思う。

【定時制】

(丸田) 授業参観では、一人ひとりの生徒に応じた丁寧な指導ができていると感じました。「生徒会新聞」では、多くの記事と写真で生徒の活動がよく分かりました。予算の問題があるとは思いますが、写真がよく見えるように、紙面をA3判にしようでしょうか。

(小川) 各生徒の多様性が全日制の生徒以上にあり、丁寧に対応されている教員のメンタルもケアしてあげたい。

【通信制】

(丸田) 授業参観では、生徒たちが楽しそうに授業に参加している様子でした。登校回数が少ないので、日常の指導や支援が丁寧にされていると感じました。「丸亀通信」には生徒の写真や記事が多く、スクーリングだけで

はない生徒間のコミュニケーションの工夫がされていると思いました。

【その他全般】

(香川) 昨今、PTAへの(強制)加入が問題になることもあります。貴校はどのような状況なのでしょう。県内にも入学の際にPTAに加入する書類を提出する高校もできているようです。役員や委員会が保護者の負担になり得ることもあるかもしれません。時代に応じて、PTAの在り方も検討していく必要があると思います。

(丸田) 全体的に良く取組まれ、生徒の希望する進路が確保できていると思います。ホームページについては、担当者の負担が大きくならないように、工夫をしていただき、速やかな情報発信をお願いしたいと思います。一卒業生として、母校のウェブサイトはよく拝見しています。

(小川) TP成果発表を少し拝見しました。各グループなりに工夫してがんばっているようでしたが、グループごとに成果に差が見られました。